

## 和仏法律学校講義録

加藤, 正治 / 杉本, 貞治郎 / 下村, 宏 / 掛下, 重次郎 / 栗津, 清亮

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-23

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

44

(発行年 / Year)

1900-01-10

孫君

和佛清講學齋  
講義錄

筆記

每月一回

第貳拾參號

目次

商法海商(自一至四頁) 法學士掛下重次郎

商法保險(自一至五頁) 法學士栗津清亮

財政學(自一至三頁) 法學士下村宏

海商法(自一至四頁) 法學士加藤正治

商法會社(自一至五頁) 法學士杉本貞治郎

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

# 法學志林

第參號

一月五日發行

每月一回發行  
定價一冊金拾錢 郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵  
稅不要  
校友生徒校外生ニ限リ  
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

○志林 法人ノ刑事上ノ責任、法學士若槻禮次郎●法律ノ意義ニ關スル歴史の觀察、法學士前田孝階  
上ニ於ケル強者ト弱者、法學博士松崎藏之助

○纂論 北米合衆國ノ亞細亞洲ニ出現ニ付日本帝國ノ利害、法學士秋山雅之介

○批評 無盡講代表者ノ訴訟能力ニ關スル件、法學士棟居喜九馬●確認訴訟ノ新判決例、法學士飯田宏作

○散錄 ホアンナード氏ノ逸事、辯護士佐々木茂三郎

○解疑 民法及ヒ商法問題解答三、法學博士梅謙次郎●民事訴訟法問題解答一、法律學士前田孝階

○雜報 地上權ニ關スル法律案○年未年首ノ休暇ト執達吏○貸家ノ所有ト地上權○會社支店ノ登記期間

○爲替手形ノ引受○署名問題ノ影響○議員ノ法律思想○高利貸法案ノ否決○無盡講代表者ノ訴訟

○記 校友會○維持員會○祝宴ト懇親會○山田東次君ノ逝去○討論會○同窓實業會○特別卒業試驗

○及第者○圖書閱覽室資金寄附者氏名○辯護士試驗及第者○校友異動○校友死亡

## 發行所

東京市麴町區富士見町六丁目  
(電話番町一七四)

司法省指定

## 和佛法律學校

## 商法海商

法律學士 掛下重次郎 講述  
校友 小田幹治郎 編輯

## 商法第五編海商

### 緒論

海上法ノ意義  
凡ソ海上法ハ汎ク之ヲ論スレハ幾多ノ部類ニ分ル其部類ノ一ハ萬國公法ニ其  
ニハ行政即警察上ノ立法其三ハ民法ニ屬ス萬國海上法即佛語ニ所謂ル海上國  
際法(La diplomatie de la mer)ナルモノハ海上船舶及ヒ海上交通ニ付キ各國ノ間ニ  
通用ス可キ法律上ノ原則ニシテ萬國公法上ノ關係ヲ有スル各國政府ニ於テ同  
シク遵奉ス可キモノヲ包含ス然レトモ該法ニ屬スル事項中或ハ一國ノ法律ヲ





以テ之ヲ定ムルモノナシトモス例ヘハ捕獲法及ヒ封港法ノ如ク殊ニ軍艦商船ノ區別海上交通ノ自由海賊等ニ係ル萬國海上警察及ヒ海上儀式等ニシテ此外海戰法即局外中立封港及ヒ戰時禁制物等ニ係ル原則亦之ニ算ス  
海上行政即警察法ナルモノハ其國船舶ノ行政官廳ニ對シ遵守ス可キ規則ニ係リ此規則タル專ハラ商船ニ關スルモノナリ何ントナレハ軍艦ハ軍隊ト同シク特別ノ行政ニ屬シ普通行政ノ外ニ在レハナリ故ニ右規則ニ屬スルモノハ管海官廳管港官廳及ヒ其事務船舶及ヒ港上警察其他船舶製造水先案内船員ノ警察ニ對スル關係即船員教育并ニ試驗等是レナリ  
海上民法ハ船舶及ヒ航海上ノ事ニ付キ各個人ノ間ニ於テ遵守ス可キ原則ニシテ普通民法ト同シク成文法ト慣習トヨリ成ル今ヤ航海ハ重モニ海商ヲ目的トスルカ故ニ海上民法ハ海商法ト同一物タリ而シテ海商ハ一般ニ云ヘハ船客貨物ノ運送漁獵國土發見又ハ娛樂ノ爲メニスル艦裝ヲ必スシモ除クニ非スト雖モ主トシテ海上運送ニ係ル何ントナレハ航海ハ其目的ノ如何ヲ問ハス海商法ノ要項ニシテ航海ノ業ハ總令ヒ商業ヲ本トセサルトモ常ニ商業ト看做ス可ケ

レハナリ故ニ海上船舶ハ爲替或ハ手形振出ノ如ク必ラス之ヲ商事ト看做シ殊ニ實際ニ於テハ軍艦ヲ除クノ外百種ノ船舶殆ント皆ナ海上商即海運送ニ供スルモノナリ是ヲ以テ娛樂船ヲ艦裝シテ世界ヲ一周センカ其船員并ニ其船舶ニ關スル契約及ヒ海難ニ付テハ眞ノ商船ト同一ノ原則ニ依ラシムル國多シ  
近時ノ法律ニ於テハ海上法ノ諸部類ヲ區別スルコトヲ始メ佛國商法第二編第一九〇條以下ニ專ハラ民事上ノ事ヲ規定ス其他ノ商法モ亦多ク之ニ類ス但タ海上警察ニ屬スル事ハ之ヲ合記スルコトナキニ非ス又實ニ分別スルコトヲ得サルモノアリ何ントナレハ是レ併セテ行政法及ヒ民法上ニ關係ヲ有スレハナリ即船舶ノ検査登録船員ノ權利義務及ヒ海難等ニ係ル規則ノ如キ是レナリ本法ハ此點ニ付テハ全ク右商法ニ摸倣シ萬國海上法海上行政即海上警察法ノ原則ハ海商法ノ外ニ置キ之ヲ特別法ニ讓レリ  
萬國海上法及ヒ海上行政法ニ關スル英佛伊獨國ノ重要ナル法令ハ左ノ如シ  
佛國法令  
千六百八十一年ノ勅令(ラルドオンス)

千八百四十五年六月十三日ノ法律

千八百六十六年五月十九日ノ法律

伊國法令

千八百六十五年六月二十五日ノ法律(商船法)

千八百七十七年五月二十四日ノ法律(商船法)

英國法令

千八百五十四年八月十日ノ商船條例(メルチャント、ジツビンダ、アクト)

其附錄追加即千八百五十五年八月十四日ノ法律

千八百五十五年八月十四日ノ船客運送規則

千八百六十二年七月二十九日ノ法律

千八百七十六年八月十五日ノ法律

獨國法令

千八百六十九年五月十三日ノ殖民地其他ノ商船條例

千八百六十七年十月二十五日ノ商船屬籍規則

千八百七十六年八月十四日ノ海難信條條例

千八百七十七年七月二十七日ノ海難調查規則

千八百七十二年七月五日ノ船舶測度條例

千八百七十二年七月二十九日ノ海員條例

千八百七十四年五月十七日ノ坐礁ニ關スル法律

本邦ノ法令ノ重要ナルモノハ左ノ如シ

明治三年正月第二十七號布告商船規則

同 五年四月外務省達外國船乘組心得

同 六年六月第三百十五號布告海關輸出入荷物取扱規則

同 八年五月三十一日第九十八號布告西洋形船へ賊難防禦ノ爲メ大小砲設

備ヲ許ルス件

同 八年九月廿四日第四十四號布告西洋形船信條

同 八年十二月第百八十四號布告廻漕貨物取扱條例

- 同 九年三月第三十號布告內國船舶乘組規則
- 同 十年三月八日第二十八號布告船舶ノ買賣書入質ニ付キ公證ヲ受クルコト
- 同 十年七月第五十二號布告外國航日本形船へ國旗ヲ掲揚スルコト
- 同 十一年十二月九日第三十七號布告西洋形船水先免狀規則
- 同 十二年二月五日第五號布告西洋形船々籍編入方
- 同 十二年二月第九號布告西洋形商船海員雇入雇止規則
- 同 十二年五月十五日第十九號布告航海公證規則ヲ廢シ西洋形船免狀改正ノ件
- 同 十三年七月十六日第三十五號布告海上衝突豫防規則
- 同 十四年二月十七日第十二號布告漁船十噸帆船二十噸以下及湖川港灣限リ運轉スル西洋形船免狀ヲ要セサルコト
- 同 十四年十二月二十八日第七十五號布告西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

- 同 十七年四月第十號布告船舶積量測定規則
- 同 十七年十二月第三十號布告西洋形船舶検査規則
- 同 十九年八月法律第一號登記法
- 同 二十三年七月勅令第百卅三號商業及ヒ船舶ノ登記ニ關スル件
- 同 二十三年十月勅令第二百十九號船籍規則
- 同 二十五年六月法律第五號海上衝突豫防法
- 同 二十六年十月逕信省令第十八號西洋形船舶検査細則
- 同 二十八年一月逕信省令第一號外國航海中海難届出手續
- 同 二十九年四月法律第六十八號船舶職員法
- 同 二十九年四月法律第六十九號海員懲戒法
- 同 三十年五月逕信省令第八號海技免狀取扱規則
- 同 三十二年三月七日法律第四十六號船舶法
- 同 三十二年三月七日法律第四十七號船員法
- 同 三十二年三月十三日法律第六十三號水先法

同 三十二年三月二十八日法律第九十五號水難救護法  
 同 三十二年五月二十六日遞信省令第十九號商法第五百六十二條ニ揭クル  
 書類ノ件  
 同 三十二年五月二十六日遞信省令第二十號商法施行法第二百二十二條ニ依  
 ル湖川港灣及沿岸小航海ノ範圍ノ件  
 同 三十二年六月十二日遞信省令第二十四號船舶法施行細則  
 同 三十二年六月十二日遞信省令第二十五號船員法施行細則  
 同 三十二年六月十二日遞信省令第二十六號船員法第七十九條ニ關スル件  
 同 三十二年六月十五日勅令第二百七十號船舶登記規則  
 同 三十二年七月二十九日遞信省令第三十三號水先法施行細則  
 同 三十二年七月二十九日遞信省令第三十四號水先人試驗規則  
 同 三十二年七月二十九日遞信省令第三十五號水難救護法施行細則  
 以上列舉シタル法令中漸次廢改セラレタルモノ數多アリ  
 第五編海商ヲ分チテ六章トス即第一章船舶及船舶所有者第二章船員第三章

八

運送第四章海損第五章保險第六章船舶債權者等是レナリ

第一章 船舶及船舶所有者

舊商法ニ於テハ船舶ト船舶所有者トハ章ヲ異ニシ之ヲ各一章ト爲シタレトモ  
 新商法ハ之ヲ合シテ一章ト爲シタリ而シテ新商法カ之ヲ併合シタル所以ハ舊  
 法ノ船舶ニ關スル規定ハ行政法若クハ手續法ニ屬スルモノ多クシテ新商法ノ  
 主義ヨリ云ヘハ商法中ニ存ス可キ規定ニ非サルヲ以テ之ヲ他ノ法令ニ讓リタ  
 レハ單ニ船舶ニ關スル規定ノ殘存スルモノ極メテ僅少ナルヲ以テ之ヲ一章ト  
 シテ掲クルノ必要ナク且船舶ニ關スル規定ト船舶所有者ニ關スル規定トハ密  
 接ノ關係ヲ有スレハナリ  
 海商ノ目的タル船舶第五三八條  
 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ  
 本編ノ規定ハ端舟其他櫓艇ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓艇ヲ以テ運轉ス  
 ル舟ニハ之ヲ適用セズ(舊商法第八二四條第八二五條第二項佛商第一九〇條獨  
 商法第四三二條)

海商法ハ直接間接ニ船舶ニ關スル規定ナルヲ以テ其船舶トハ單ニ營利ヲ目的トシテ航海ノ用ニ供セラル、モノニ限ルカ將タ單ニ航海ノ用ニ供セラルレハ可ナルカ獨逸商法第四三二條ノ如キハ航海ヲ以テ利ヲ營ムヲ目的トスル船舶ニ限リ其他ノ船舶ハ海商法ノ目的タラサルナリ狹隘主義佛國商法第九十條ニハ商船其他ノ船舶トアリテ海商法上ノ船舶ハ獨リ航海ヲ以テ營利ヲ目的トセルモノニ止マラス汎ク其他ノ船舶モ海商法ノ適用ヲ受クルモノトシタリ(汎博主義而シテ吾舊商法モ其第八百二十四條ニ商船其他ノ海船ト云ヒテ此汎博主義ヲ採用シタリシカ新法ハ之ト異ナリテ其原則トシテハ狹隘主義ヲ採用シタリ是ヲ以テ海商法ノ適用ヲ受クル船舶ハ獨リ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノニ限リ其以外ノ目的例ヘハ國土發見ノ爲メ航海スルモノ娛樂ノ爲メニスルモノ等ハ本法ノ適用ヲ受ケサルナリ而シテ本法カ此ノ如キ主義ヲ採リタルハ本法ハ固ト主トシテ商行爲ノミニ關スル規定ヲ設クルヲ以テ商法全體ニ通スル立法ノ主義ト爲セルカ故ニ船舶ニ付テモ同主義ヲ採リタルニ外ナラサルナリ然レトモ船舶法第三十五條ニ於テ商法第五編ノ規定ハ商行

爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラスト規定シタルヲ以テ本法適用ノ結果ヨリ云ヘハ本法ハ單ニ營利ヲ目的トシテ航海スル船舶ニ限ラス其他ノ船舶ヲモ支配スルモノナレハ右船舶法ノ存スル以上ハ其表面ハ狹隘主義ヲ採用スレトモ其内容ハ汎博主義ト爲レリ彼ノ千八百五十四年發布ノ英國商船條例モ亦殆ント同一ノ規定ナリ  
官廳公署ニ屬スル船舶ハ軍艦ニ非サルモ本法ヲ準用ス可キモノニ非ス是レ海商法ノ私法タル性質ヨリ生スル當然ノ結果タルヲ以テナリ  
又縱令ヒ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶ニ在リテモ湖川港灣ヲ航行スル船舶ニ關シテハ運送ヲ爲スヲ以テ業トスル點ニ付テハ第三編第八章ノ規定アルヲ以テ足レリトモ故ニ第三百三十一條ニ運送人トハ陸上又ハ湖川港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フトアル所以ニシテ本法ノ適用ヲ受クルハ獨リ海上航海ノ用ニ供スル船舶ニ限ルモノト爲シタリ而シテ湖川港灣ノ範圍ハ商法施行法第二百二十二條ニ依リ遞信大臣之ヲ定

ムルコトト爲シタルヲ以テ遞信大臣ハ明治三十二年五月二十六日省令第二十號ヲ發シ其範圍ヲ定メタリ(湖川港灣ノ範圍ハ平水航路ノ區域ニ依ル)

眞ノ航海ニ堪ヘサル船舶ハ總ヘテ之ヲ海上法中ヨリ除カサル可カラズ其航海ニ堪ヘサル船舶ニ算スルニハ船舶ノ巨大及ヒ遠洋ノ航行ヲ必要トスルニ非ス即チ風波ニ堪ヘ海上百種ノ變事及ヒ危險ヲ凌クノ能力アルヲ要ス而シテ此能力アルモノハ獨リ漁船及ヒ帆船ニ限リ權權ヲ以テ運轉スル舟ハ否ラス何ントナレハ權權ヲ以テ運轉スルモノハ海上ノ變災ニ堪ヘス遠洋ノ航行ニ適セサレハナリ而シテ權權ヲ用ユル小舟ト雖モ併セテ帆ヲ用ユルノ準備ナキニ非スト雖モ是レ唯タ附屬ニ止リ其力小ナルカ故ニ此ノ如キモノハ帆ヲ備フルト雖モ未タ以テ法律上海船ト觀ル可カラサルナリ

船舶ノ屬具(第五三九條)

船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物トス舊商法第八三八條佛商法第一九一條獨商法第四四三條

船舶トハ獨リ船體其物ノミヲ指スニ非スシテ之ニ附着セル桅檣帆具機關碇錨

端舟綱具其他ノ物ヲ包含セル名稱ナリ是レ猶ホ家屋ノ名稱中ニ其從物タル壘建具カ包含スルト一般ナリ而シテ新商法ハ如何ナル物カ船舶ノ從物ナルカ一之ヲ指示セス單ニ船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ヲ從物トストノミ云ヘリ蓋シ新商法カ舊商法ノ如ク列舉主義ヲ採ラスシテ右ノ如ク概括的ニ之ヲ規定シタルハ他ナシ若シ之ヲ列舉スルトキハ往々ニシテ脫漏ヲ生スルノ虞ナキニ非ス良シ列舉シタル物ニシテ今日脫漏ナキモ世ノ進歩ト共ニ他日屬具ノ種類ヲ増スコトアル場合ニ於テ本法ノ規定ニ適用ヲ受ケナルコトノ虞アルヲ以テナリ而シテ法律ハ第五百六十二條第三號ニ屬具目錄ハ之ヲ船中ニ備ヘ置ク可キコトヲ船長ノ義務ト爲シタルハ船舶ノ屬具ハ必ス之ニ記載セラル、可キナ

船中ニ備ヘ置ケル屬具ハ多クハ船舶所有者ノ所有ナル可シト雖モ屬具目錄ニ記載セシ物亦必スシモ船舶所有者ノ所有ニ非スシテ或ハ他人ノ物ヲ以テ之カ用ヲ充タスコトナキヲ保セサレトモ法律ハ多數ノ場合ヲ想像シテ船舶ノ屬具目錄ニ記載セタル物ハ之ヲ其從物ト推定シタル所以ナリ但シ其所有者ハ推定



ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒテ自己ノ所有ナルコトノ反證ヲ舉ケ船舶カ賣却セ  
ラレ若クハ差押ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テ之ヲ取還スルコトヲ得可キハ勿  
論ナリ

法律カ船舶ノ屬具ヲ其從物ナリト規定スルト否トニ依リテ實際上ノ利益ニ大  
ナル關係ヲ有セリ例之ヘハ船舶ノ所有權移轉ノ場合船舶ヲ保險ニ付シタル場  
合及ヒ共同海損ノ場合等ニ於テ船舶ノ屬具カ其從物ニ非ストスルトキハ單ニ  
船舶ヲ賣却シタル場合ニ屬具ハ其中ニ包含セス船舶ヲ保險ニ付シタルトキ其  
屬具カ海難ニ依リテ滅失シタルトモ船舶ノ被保險者ハ保險者ヲシテ之カ損害  
ノ填補ヲ爲サシムルコトヲ得ス又共同海損ノ場合ニ於テハ船舶ノ價格ヲ算定  
スルコトヲ要スルニ屬具ノ價格ハ其中ニ算スルコトヲ得ス尙ホ其外船舶債權  
者カ船舶ニ對シテ其擔保權ヲ實行スル場合ニ於テモ亦之ニ類スル利益アルヲ  
見ル

茲ニ注意ス可キハ船舶ノ屬具ハ其物件ニシテ苟クモ航海ノ爲メニ用ユ可キモ  
ノナレハ實ニ之ヲ用ユルニ非ヌシテ唯タ其要用ノ時ニ供スルモノタリトモ亦

此中ニ算スルコト是レナリ故ニ豫備桅檣豫備帆布等既ニ作成シタルト材木白  
布鐵厚板等ノ如ク原料品トシテ存スルトヲ問ハス屬具目錄ニ記載セラレタル  
物ハ皆ナ屬具ノ中ニ算スルナリ之ヲ要スルニ船舶ノ從物トハ總ヘテ船舶ニ附  
屬シテ其用ニ供スルモノナリ然レトモ縱令ハ航海中船舶ノ爲メニ用ユル物ナ  
リト雖モ船舶所有者ニ屬セス船長船員又ハ旅客ノ私有タル物件ハ從物ニ算ス  
可カラサルナリ例之ヘハ航海用地圖書籍望遠鏡時辰儀等ニシテ船長船員  
ノ所有ナル場合ノ如キ是レナリ若シ此等ノ物件ニシテ屬具目錄中ニ記載セラ  
レタルトキハ既ニ叙述スルカ如ク其所有者ヨリ自己ニ屬スルコトノ立證ヲ爲  
サ、ル可カラス

船舶ノ登記及ヒ國籍證書第五四〇條

船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クル  
コトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セ  
ス舊商法第八百二十五條第一項第八百二十六條千八百四十五年六月十三日ノ

船舶所有者カ船舶ノ國籍證書ヲ請受クルコトハ國ト船舶所有者トノ關係公法關係ニシテ曩キニモ說キタルカ如ク是レ私法タル商法ノ目的ニ非サルヲ以テ又船舶ノ登記ハ私法關係ナレトモ本法ニ規定セサルヲ便宜ナリトスルヲ以テ本法ハ之ヲ特別法ニ讓リタリ然レトモ此二者ハ海商法ノ目的タル船舶ト密着ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ニ關スル概念ヲ茲ニ叙述セン

舊商法ノ規定ニテハ船舶所有者ハ管海官廳ヨリ船籍證書ヲ受ケタル後船籍港ヲ管轄スル裁判所ニ於テ船舶登記簿ニ登記ヲ受ケ且必ス其登記證書ノ交付ヲ受クルコト、シタレトモ本法ニ於テハ二者ノ必要ヲ認メス獨リ船舶國籍證書ノミニテ足レリトモリ蓋シ舊商法カ二者ヲ併セテ必要ナリトシタルハ國籍證書ハ行政監督ノ爲メニシ登記證書ハ私權ノ證明ノ爲メニスル主意ナル可シト雖モ本法ニ於テハ船舶ノ登記ハ不動産ノ登記ト異ナリ船舶ニ付テ特別ノ知識アル管轄官廳ノ官吏ヲシテ之ヲ掌ラシムルヲ以テ便宜頗ル多キモノトセルカ故ニ右二證書ノ一ヲ以テ二者ノ目的ヲ併セ達シ得可シトシ船舶登記證書ニ付テ

ハ敢テ之ヲ規定セサルナリ

船舶ノ登記ニ關スル特別法ハ船舶登記規則船舶法第三十四條ノ規定ニ從ヒ明治三十二年六月十五日勅令第二百七十號ヲ以テ發布セラレタルカ船舶ハ所有權抵當權及ヒ賃貸借ニ關スル登記ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ同規則ニハ不動産登記法ノ規定ヲ準用スルモノ數多アレトモ亦特別ノ規定甚タ多シ而シテ明治十九年八月法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ船舶法ノ施行ト共ニ廢止セラレタリ

舊商法ニ於テハ日本船舶タル爲メニ要スル條件ヲ定メ日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲グル權利ヲ有セス其積量十五噸以上ノ船舶ハ總ヘテ航海ノ用ニ供スル前測度ヲ受ク可キ旨ヲ規定(第八二四條第八二五條)タレトモ此等ノ事項ハ總ヘテ公法關係ナルヲ以テ法律ハ之ヲ海商法中ニ置カスヲ船舶法ニ讓ラタリ

船舶法ニ從ヘハ日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登錄ヲ受ケサル可カラサルモノニシテ其登錄ヲ受



ケタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルモノトセリ(船舶法第五條)  
茲ニ一ノ注意ス可キモノアリ即チ船舶ノ登記ト船舶原簿ニ登錄ヲ爲ストハ調  
一ノモノニ非ス登記ハ船舶港ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ノ管掌スルモ  
ノニシテ其目的全ク私權保護ニ在リ之ニ反シテ船舶原簿ニ登錄ヲ爲スハ船舶  
港ヲ管轄スル管海官廳ノ管掌スルモノニシテ行政監督ノ爲メニ設ケタル全ク  
公法關係ノ規定ナリ  
船舶ノ國籍ヨリ生スル結果ハ其國ノ立法及行政權ヨリ自國ノ船舶ニ與フル  
特權或ハ國際條約ヲ以テ他國ノ船ニ與フル特權ヲ論スルニ其船舶ノ國籍如何  
ヲ以テスルコト是レナリ又戰爭及ヒ局外中立等ニ係ル萬國公法上ノ權利義務  
モ亦其國籍ニ依リテ定マルモノナリ是ヲ以テ船舶ノ國籍ハ法律ヲ以テ之ヲ規  
定シ之ヲシテ他國法律及ヒ萬國公法ノ原則ニ抵觸セザラシムルハ種々ノ點ヨ  
リ論シテ甚タ緊要ナリ蓋シ戰時ニ在リテハ場合ニ依リ他國ノ政府ヨリ某船舶  
ノ國籍ヲ認可セサルコトアリ或ハ又反對ノ認定ヲ爲スコトナシトセス然レト  
モ是レ萬國公法上ノ問題ニ屬シ茲ニ論述ス可キモノニアラス

又船舶ノ國籍ヨリ生スル最モ汎博ナル結果ニシテ併セテ國籍ノ公然タル目標  
ト爲ルモノハ國旗ヲ用ユルノ權利是レナリ而シテ國旗ヲ用ユルノ權利ハ其國  
ノ船舶ニ屬スル百種ノ權利ヲ包含スルモノナルカ故ニ船舶法第二條ニ日本船  
船ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケタルコトヲ得スト明文ヲ以テ規定スル所以ナリ  
然レトモ權利アレハ必ス之ニ對スル義務アリ何國ノ船舶ト雖モ平常他國ノ國  
旗ヲ掲ケ其國籍權利ヲ濫用スルコトヲ得サルヲ以テ船舶法ニ捕獲ヲ避ケル目  
的ヲ以テスル場合ヲ除キ日本船舶ニ非スル船舶ノ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本  
ノ國旗ヲ掲ケタルトキ又日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サ  
ル旗章ヲ掲ケタルトキハ就レモ制裁ヲ付セリ(船舶法第二二條第二三條舊商法  
第八三二條)  
以上船舶ノ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受タルコトノ規定ハ船舶ノ稍大ナ  
ルモノニ限リ噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ハ之カ適用ヲ受  
ケサルモノトセリ(舊商法第八百二十五條ハ十五噸以下トス英國亦同シ獨逸ニ  
テハ帆船ハ二十二噸以下漁船ハ十五噸以下トス蓋シ二十噸又ハ二百石未滿ノ

小船ハ商船ノ國籍ニ關スルコト僅少ニシテ本國ノ沿岸ヲ離ルルコト例外ナレハ之ヲ大船ト同一視スルコト能ハサレハナリ  
 船ノ讓渡(第五四一條) 船ノ讓渡ハ其登記ヲ爲シ且船船國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ船船所有權ノ讓渡ハ其登記ヲ爲シ且船船國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(舊商法第八三五條佛商法第一九五條獨  
 商法第四三九條第四四〇條) 民法第八十六條ニ依レハ土地及ヒ其定着物ハ不動産ニシテ其他ノ物ハ總ヘテ  
 動產タルカ故ニ船船モ亦動產ナルコト明白ナリ然ルニ多數ノ立法例ニ於テハ故テラニ之ヲ動產ナリト明言セリ佛商法第一九〇條伊商法第四八〇條而シテ  
 舊商法第八百三十四條ニモ同一ノ明文ヲ掲ケタリ蓋シ多數ノ立法例ニ船船ハ動產ナリト明言スルハ往時ハ船船ノ價貴キカ爲メニ之ヲ土地ノ如ク看做スノ  
 傾向アリシ又國際上ニ於テハ本國ニ屬スル土地ノ一部タルノ効力アラシムル  
 コト多シ然レトモ最近ニ於テハ動產法ニ從ハシムルヲ以テ其當ヲ得タリトス  
 ルニ至レリ是レ貿易并ニ航海上ニ利便ナルカ故ナリ

然レトモ船船ハ他ノ動產ニ於ケルカ如キモノニ非ス特別ノ固有質ヲ有シ不動  
 產ニ關スル原則若クハ之ニ類スル原則頗ル多シ例之ヘハ一普通ノ動產ノ讓渡  
 ハ公證ヲ受ケ又ハ登記ヲ爲スコトナキニ特別法明治十年三月八日第二十八號  
 布告明治十九年八月法律第一號登記法ノ規定ニ依リ公證ヲ受ケ又ハ登記ヲ爲  
 スニ至レリ二船船ヲ買入又ハ抵當ノ目的ト爲スコトヲ得三船船ニ對スル強制  
 執行ハ普通ノ動產ニ對スルモノト異ナリテ概シテ不動産ニ關スルモノニ同シ  
 (民事訴訟法第七一七條乃至第七二九條)カ如キ是レナリ又外國ノ立法例ノ如  
 キモ多ク之ニ類ス夫レ此ノ如ク船船ハ不動産ニ關スル規定ニ類スルカ故ニ佛  
 法伊法ノ如キハ船船ハ不動産ニ非スシテ動產ナル旨ヲ明言シ注意ヲ爲シタリ  
 而シテ此等ノ法律ニ模倣シタル舊商法モ同シク船船ハ動產ナル旨ヲ明言シタ  
 リト雖モ吾邦ニ於テハ動產不動産ノ定義ハ民法第八十六條ニ在リテ船船カ不  
 動產ニ非サルコト明カナルヲ以テ新商法ニハ復タ之ヲ特記スルノ必要アラサ  
 ルナリ  
 民法ノ規定ニ依ルトキハ動產ノ讓渡ハ當事者間ニ在リテハ意思表示ノミニ因

リテ其効力ヲ生スルヲ原則民法第一七六條トシ唯タ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルカ爲メニノミ引渡ヲ要スル旨ヲ規定セリ是ヲ以テ此規定ノミニ依ルトキハ船舶ハ動産ナルヲ以テ單ニ其引渡ヲ以テ之カ所有權ヲ讓渡シ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルカ如シト雖モ抑モ船舶ハ必スシモ船籍港ニ碇泊スルモノニ非ス他ノ港ニ在ルコトアリ航行中ナルコトアリ加之船舶其有者カ其持分ヲ讓渡ス場合ニハ其引渡ナル事ヲ想像スルヲ得ス昔時ハ船舶ノ所有權ヲ表示スル證書ノ引渡ヲ以テ若クハ單ニ證書ノ作成ヲ以テ其引渡ニ換ヘタルコトアリシカ近世ノ法律ニ於テハ此ノ如キ形式ニ依リテ船舶所有權ノ移轉ヲ決定セシムルモノ少ク多クハ其讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルカ爲メニ若クハ證據トシテ一定ノ方法ヲ規定スルモノアリ今ヤ諸國ノ法律ヲ分類スレハ或ハ書面ヲ要スト爲シ或ハ書面ト登記トヲ要スト爲シ或ハ公正證書ヲ要スト爲シ或ハ公正證書ト登記トヲ要スト爲セリ吾舊商法第八三五條ハ船舶構造ノ契約ハ勿論買賣其他ノ權利行爲ニ因リテ船舶ノ全部若クハ股分持分ヲ取得スル契約ハ特ニ作レル契約證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ取結フコトヲ得スト規定セリ而

シテ此規定ハ契約ノ證據ノ爲メニ必要ナルニ非スシテ其成立ノ要件タルナリ本法ハ商事契約ノ成立要件トシテ形式ヲ要セサルコトヲ以テ通則トスルカ故ニ船舶ノ所有權移轉ノ契約ニ契約證書ノ作成ヲ其成立ノ要件ト爲スコトハ之ヲ採用セス而シテ船舶ノ所有權ノ移轉ハ不動産ニ於ケルト同シタ當事者間ニハ意思表示ノミヲ以テ有効トシ唯タ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル爲メニハ所有權移轉ノ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載セサル可カラサルコトトモ之ヲ故ニ船舶ハ航海中若クハ他港ニ碇泊シテ船籍港ニ在ラス隨フテ引渡ナシト雖モ讓渡ノ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ其旨ヲ記載スルニ於テハ第三者ニ之カ對抗ヲ爲スコトヲ得可シ

又舊商法ニハ相續結婚其他此類ノ事由ニ因レテ船舶所有權ノ移轉ハ公正ノ證書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス第八三五條第二項ト規定シタレトモ是レ船舶登記法ニ定ム可キモノナレハ本法中ニハ之ヲ規定セス此ノ如キ登記ノ變更ハ船舶登記規則ニ從ヒ登記セラル可カラス

讓渡ノ場合ニ於テ航海中船舶ヨリ生シタル利益第五四二條

航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス舊商法第八三九條獨商法第四四一條）

民法ノ規定ニ從フトキハ物件ヲ賣買シタル場合ニ於テ其物件ニ附着スル物權例之ヘハ地役權質權抵當權等ノ如キハ買主ニ移ル然レトモ賣渡シタル物件ニ係ル契約上ノ關係ニ至リテハ然ラサルナリ例之ヘハ土地建物ノ借賃ノ如キハ別段ノ契約ヲ以テスルニ非ラレハ買主ニ移轉スルコトナシ之ニ反シテ船舶ノ運送貨ハ多少船舶ノ權利ノ一部分タルコト其從物ト相似タリ故ニ運送貨ハ船舶所有者ノ船舶ノ義務ニ充ツルコトナシトモ例之ヘハ船舶所有者カ船長其他船員ノ行爲ニ付キ船舶債權者ニ對シテ責任ヲ負フ場合第五四四條ノ如キハ運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ船舶ノ一部ト看做サル、ナリ是ヲ以テ運送貨ヲ船舶トシテ之ヲ算シ之ヲシテ新所有者ニ移轉セシムルハ海上法上ノ原則ナリ又航海中生スル所ノ損失モ亦之ト同シク新所有者ヲシテ負擔セシム可ク且運送契約ハ不可分の契約ニシテ

運送貨ハ運送時間ノ割合ヲ以テ支拂フ可キモノニ非ス運送ヲ終了シ到着港ニ於テハ荷物ヲ引渡シタル後支拂フ可キヲ通例トス又荷主ノ要價ハ船舶ヲ相手（第六八〇條第九號）トスレハ右ノ場合ニ於テハ買主ニ對スルモノナリ又外國法中或ハ讓渡ノ日ヲ以テ限界ト爲シ其前後ニ依リ損益ノ歸屬者ヲ定ムルノ立法例ナキニ非スト雖モ航海中ノ損益ハ前後不同ニシテ時間ノ割合ヲ以テ安リニ之ヲ分割ス可カラス若シ偶然ノ期日ニ依リテ其前後ヲ劃シ以テ損益ノ歸屬者ヲ定ムルニ於テハ利益ヲ多ク取得スル者ト少ク取得スル者トヲ生シ甚シキハ一方ニハ利益ノミヲ取得スル者ヲ生シ他ノ一方ニハ損失ノミヲ負擔スル者ヲ生シ不公平ノ結果ヲ生スルコト無キヲ保シ難シ是レ特約ナキ場合ニハ當事者ノ意思ニ反スルコト多カル可シ是ニ由テ之ヲ觀レハ航海中船舶ヲ賣買シタル場合ニ於テ其航海ヨリ生スル損益ハ契約當事者ニ特約アルニ非サレハ賣買契約結了以後ニ係ルモノニ止マラス其航海ニ因リテ生シタル全運送貨ヲ以テ船舶ニ附屬シタルモノトスルハ其當ヲ得タリト云フ可ク然レトモ此規定ハ契約當事者ノ意思ヲ推定セテ設ケタルモノナレハ其當事者ハ特ニ意思ヲ表示シテ

此規定ニ反スル契約ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ  
 茲ニ注意ス可キコトアリ以上ノ規定ハ其航海ヨリ生スル利益及ヒ損失ト云フ  
 カ故ニ船舶自體ノ毀損ヨリ生スル損害ニ至リテハ賣主買主中何人カ之ヲ負擔  
 ス可キヤハ讓渡ノ日ノ前後ニ依リテ之ヲ區別スルモノニシテ是レ民法ノ適用  
 ニ依リ明瞭ナルヲ以テ此場合ニ本條ノ規定ヲ適用ス可キモノニ非サルナリ  
 發航ノ準備ノ終リタル船舶ニ對スル差押ノ禁止第五四三條  
 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終リタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
 但其船舶カ發行ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラズ舊商法第八  
 五九條佛商法第二一五條第二三一條獨逸商法第四四六條  
 債務者タル船舶所有者ニ於テ船舶カ擔保スル所ノ債權ニ對シテ辨濟ヲ怠ルト  
 キハ其債權者ハ船舶ニ對シテ其債權ノ執行ヲ爲スヲ得可キコトハ普通ノ原則  
 ナルカ法律ハ此原則ニ對シテ船舶ヲ差押スルコトヲ禁シタル一ノ例外ヲ設ケ  
 タリ而シテ此規定ハ航海ニ係ル因襲上ノ特權ニシテ諸國ノ法律ニモ認容スル  
 所ナリ蓋シ航海ハ荷主又ハ旅客等ノ如キ種々ノ人ノ重大ナル利益ニ關係ヲ有

スルカ故ニ專ハラ船舶債權者ノ爲メニ其航海ノ利益ヲ犧牲ニセタルハ至當ナ  
 リ然レトモ其航海準備以前ニ請求ヲ爲ス能ハサル債權者即該航海ノ爲メニ債  
 權ヲ有スル者ハ此限ニ在ラサルナリ例之ヘハ航海ノ用ニ供スル石炭、食料等ノ  
 代金はレナリ何ントナレハ發航ノ準備ヲ終ル迄ニ請求ヲ爲サ、ル他ノ債權者  
 ニ對シテハ債務履行ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタリト云フコトヲ得可キレトモ  
 發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債權ニ付テハ其債權者ハ發航ノ準備以前ニ債務ノ  
 履行ノ請求ヲ爲ス可キコトヲ怠リタルニ非ス且此債權アリテ始メテ發航ノ準  
 備モ既ニ成リタルモノナルカ故ニ該債權ハ所謂擔保ノ原因ヲ爲シタルモノナ  
 レハ從テ船舶ハ該債務履行ノ擔保ト爲ラサルヲ得サルナリ  
 發航ノ準備ノ終リタルトハ如何ナル所爲ヲ行ヒ終リタルヲ云フカ法律ハ別ニ  
 之ヲ明示セザレトモ佛商法第二百十五條ニ於テハ船長既ニ其發航ニ必要ナル  
 書類ヲ具備シタルトキ發行ノ準備ヲ爲シタルモノト看做ストシタリ其必要ノ  
 書類トハ海員名簿、航海旅券及ヒ積荷ノ稅關ノ納稅受領書等所謂第五百六十二  
 條ニ記載シタルモノヲ指スモノナレハ本條ニ於ケル準備トハ蓋シ此ノ如キ書



類ノ具備シタル場合ナリト解スルコトヲ得可シ  
 船長及ヒ海員ノ行爲ヨリ生スル船舶所有者ノ責任第五四四條  
 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ  
 其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶運送貨  
 及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委  
 付シテ其責ヲ免ル、コトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス  
 前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス  
 船舶所有者ノ責任ハ種々ノ點ヨリ觀察スルコトヲ得可シ或ハ備船者ニ對スル  
 責任アリ或ハ旅客若クハ荷主ニ對スル責任アリ或ハ其他ノ債權者ニ對スル責  
 任アリ然レトモ今茲ニ檢覈スル所ハ此等ノ各場合ニ付テ船舶所有者ノ責任ヲ  
 論スルニ非スシテ船舶所有者カ船長其他ノ船員ノ行爲ニ付キテ負フ所ノ責任  
 ノ範圍ニ關スルナリ夫レ船舶所有者ハ普通ノ原則ニ從フトキハ自己ノ行爲不  
 法行爲及ヒ契約上ノ取引ト其代理人ノ行爲代理人ノ行爲ニ付テハ責任ヲ有ス  
 可キモノニ限りトニ付キ自己ノ全財産ヲ以テ其責ニ任セサル可カラズ而シテ

船舶所有者カ其代理人ノ行爲ニ付キ以上ノ責任アルハ船長及ヒ船員ノ船舶所  
 有者ヨリ特別ノ委任ヲ受ケテ爲シタル行爲ニ付テハ論ヲ俟タサルナリ然レト  
 モ此特別ノ場合ヲ除クノ外ハ船舶所有者ノ船長及ヒ船員ノ行爲ニ對スル責任  
 ノ範圍ヲ制限スルコトハ從來既ニ一般ニ認メラレタル所ナリト雖モ之ヲ制限  
 スル理由ニ至リテハ未タ一定スル所アラサルナリ要スルニ其理由ハ主トシテ  
 左ノ二點ニ存スルモノ、如シ(一)曰ク船長カ一旦航海ヲ開始スルトキハ船舶所  
 有者ハ其行爲ニ付キ殆ント之ヲ監視スルコトヲ得スト(二)曰ク航海ノ便宜ト安  
 全トヲ計ラシムルカ爲メニ船長ノ權限ヲシテ頗ル廣大ナラシメタリ然ルニ船  
 舶所有者カ其全財産ヲ以テ無限ノ責任ヲ負ハサル可カラサルモノトスルトキ  
 ハ大ニ航海業ノ發達ヲ妨グル虞アレハナリト而シテ之ヲ制限スル方法ニ付キ  
 立法例ヲ大別スルトキハ左ノ三種アリ

第一 獨逸主義 此主義ハ一名海產主義トモ稱スルモノニシテ特定ノ原因ヨ  
 リ生スル債權ニ付テハ債權者ハ船舶所有者ノ船舶及ヒ運送貨ノ如キ海上ノ  
 財産ニ付テノミ執行スルコトヲ得ルニ止リ其他ノ財産ニ付テハ執行スルコ

トヲ得ス獨逸商法第四五一條乃至第四五三條同新商法第四八五條乃至第四八七條及ヒ第五〇一條第七六三條)

第二 佛蘭西主義 此主義ハ一名委付主義ト稱スルモノニシテ船舶所有者ハ全財産即海上ノ財産ハ勿論陸上ノ財産ニ至ル迄自己ノ有スル總ヘテノ財産ヲ以テ責任ヲ負フヲ原則トス然レトモ特定ノ原因ヨリ生シタル債權ニ付テハ船舶運送貨ノ如キ所謂海上財産ヲ委付シテ總ヘテ其責任ヲ免カル、コトヲ得佛商法第二一六條

第三 英吉利主義 此主義ハ一名船價主義ト稱スルモノニシテ船舶ノ噸數ノ割合ニ應ジテ船舶所有者ノ責任ヲ定ムルナリ(千八百五十四年英國商船條例第五一六節)

右三主義中孰レカ最モ是ナリトス可キカ英主義ノ如ク噸數ニ比例シテ船舶所有者ノ責任ノ度ヲ定ムルニ於テハ或ハ船舶ノ價格ノ異ナルニ從ヒ或ハ船舶ノ種類ノ異ナルニ從ヒ例ヘハ新造船舶ト老朽船舶トノ如ク或ハ旗船ト帆船トノ如キハ其間ニ逕庭ヲ設ケ詳細ナル規定ヲ立テサルトキハ不公平ト云ハサルヲ得ス

故ニ本法ハ英主義ハ採用セザリシナリ然ラハ吾新商法ハ獨佛孰レノ主義ヲ採リタルカ舊商法第八百四十九條ハ船舶ハ、、其附屬物及ヒ未收ノ運貨ト共ニ左ニ掲グル債權ノ爲メ、、責任ヲ負フト云ヒ又其第八百四十二條ニハ所有者ハ船長及ヒ海員ノ職務執行ニ關スル行為ニ付テハ船舶及ヒ運送貨ヲ以テ責任ヲ負フ云々トアルヲ以テ獨逸主義即海產主義ヲ採リタルナリ而シテ新商法ハ此獨逸主義ヲ排シテ佛主義即委付主義ヲ採リタリ今新商法カ舊商法ノ採リタル主義ヲ改メタル所以ヲ尋繹スルニ獨逸主義ト云ヒ佛主義ト云ヒ既ニ船舶所有者ノ責任ヲ制限シ其全財産ヲ以テ責任ヲ負ハスシテ可ナリトスル以上ハ船舶所有者ニ委任權ヲ與ヘテ可ナリ何ソ必スシモ船舶債權者ヲシテ船舶運送貨等ニ對シテ執行セシメサル可カラサル理由アラシヤト云フニ在リ而シテ獨逸主義ハ獨逸ノミニ行ハレ英吉利主義ハ英國ノミニ行ハルレトモ獨リ佛蘭西主義ニ至リテハ佛國以外ノ諸國ニモ亦廣ク行ハレ將來益々擴張シテ行ハル、ノ傾向アルコトモ新法カ此主義ヲ採用シタル附隨ノ理由タルナリ

本條第五四四條ニ在ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權トハ如何ナルモノヲ指スカ

蓋シ船舶カ他船ト衝突シ其由他船ニ在リテ得キ所ノ損害賠償第六五  
 ○條又ハ共同海損第六四一條ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求權又ハ保險契  
 約アリテ之ニ因リテ得ル所ノ保險金ノ請求權ノ如キハ損害賠償ノ請求權ニシ  
 テ船舶所有者カ海難ニ遭ヘル他ノ船舶及ヒ積荷等ヲ救助シタルニ因リテ得可  
 キモノ、如キハ報酬ノ請求權ナリ而シテ此等ノ金額ハ船舶及ヒ運送貨ニ代ハ  
 リ若クハ之ヲ補充スルモノナルヲ以テ海産ニ等シケレハ法律ハ之ヲ船舶及ヒ  
 運送貨ト同視シタリ

船舶所有者カ船長其他ノ船員ノ行為ニ付キ船舶債權者ニ對シテ船舶及ヒ運送  
 貨等ヲ委付シテ其責任ヲ免ル、コトヲ得ル爲メニハ(一)船長ノ行為カ其法定ノ  
 權限内ニ於テ爲シタルモノナラサル可カラス(二)船長其他ノ船員カ其職務ヲ行  
 フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ナラサル可カラス而シテ船長カ爲シタル其法  
 定ノ權限内ノ行為トハ船長カ船舶所有者ノ特別委任ヲ受ケテ爲スカ如キ場合  
 又ハ船舶所有者カ自カラ契約シテ其執行ノミヲ船長ヲシテ爲サシムルカ如キ  
 場合ヲ云フモノニ非スシテ船長カ其資格ヲ以テ當然爲スコトヲ得ル行為ヲ指

スナリ例ヘハ其職務ノ範圍内ニ於テ取結ヒタル契約旅客及ヒ積荷ノ取扱及ヒ  
 航海ニ關スル事等是レナリ故ニ船長カ發航ヲ遅延シ航海ノ豫定ノ期間ヲ經過  
 セシメ故チ途中ニ寄港シタルヨリ他ニ損害ヲ生シタルカ如キ場合ニ於テハ  
 船舶所有者ハ之カ責任ヲ負フモノトス

船舶所有者者ハ之カ責任ヲ負フモノトス

船舶所有者者ノ特別委任ニ因リテ爲シタル行為ノ如キハ自身ニ之ヲ爲シ  
 タルト一般ナレハ船舶所有者ノ責任ヲ制限ス可キ理由ナク其場合ハ普通ノ原  
 則ニ從ヒ其全財産ヲ以テ責任ヲ負ハサル可カラス又船長其他ノ船員カ其職務  
 以外ノ行為ニ因リテ例ヘハ船中若クハ陸上ニ於テ飲酒酩酊シテ他人ヲ毆打シ  
 爲メニ損害ヲ生スルトモ是レ其本人ノ責任ニ止マリ船舶所有者ハ之カ責任ヲ  
 負フ可キモノニ非ス然レトモ船長其他ノ船員カ其職務トシテ當然爲ス可キ行  
 爲ヲ怠タリ若クハ其職務ノ執行不充分ナルカ爲メニ他ニ損害ヲ生シタルトキ  
 ハ船舶所有者ハ之カ責任ヲ負ハサル可カラス例ヘハ荷物ノ船積ヲ契約ノ期間  
 内ニ爲サス又ハ船積ノ際取扱ノ粗漏ナルヨリ荷物ヲ毀損シ若クハ海中ニ落シ  
 荷主ニ損害ヲ生シタルカ如キ場合はレナリ



以上叙述タル場合ニ於テ船舶所有者ハ海産ヲ委任シテ其責任ヲ免ル、コトヲ得可シト雖モ船舶所有者ニ過失アリタルカ爲メ船長其他ノ船員カ爲シタル以上ノ行爲ヨリ損害ヲ生シタルトキハ船舶所有者ノ責任ヲ制限スル限リニ在ラス何ントナレハ過失ハ自己ノ責任ヲ寛恕ス可キ理由タラザレハナリ

又船舶所有者カ委任ヲ爲シ得ル運送貨ノ範圍ハ委任ヲ爲シテ責任ヲ免ル、コトヲ得ル債務ノ生シタル航海ニ因リテ取得シ又ハ取得スルコトヲ得可キモノニ限リ其以外ノ航海ニ因リテ取得シタル運送貨ニ及ホス可キモノニ非サレハ其意義ヲ明カニスルカ爲メニ航海ノ終リニ於テ「」ノ辭句ヲ加ヘタリ

船舶所有者ノ有スル委任權ハ法律カ之ヲ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ適用セザルハ他ナシ若シ此場合ニモ他ノ債權者ニ對スルト同シク委任權ノ適用ヲ爲スモノトスルトキハ船員カ雇傭契約ニ因リテ有スル權利ニ對スル擔保ヲ減シ船員ハ安心セテ就職セザルヲ以テ其保護ノ爲メニ設ケタルナリ

舊商法ハ船長カ同時ニ船舶ノ所有者ナルトキ又ハ股分所有者ナルトキニ付キ特別規定ヲ設ケ他ノ一般ノ場合ニ於ケル船舶所有者ノ責任ト其程度ヲ異ニシ

タリ即船長カ船舶所有者ナルトキハ船長ハ無限ノ責任ヲ負フ然レトモ股分所有者ナルトキハ過失ノ爲メ自己ニ不分ノ責任ノ歸セザルトキニ限リ其股分ノ割合ニ應ジテ責任ヲ負ヒ尙ホ不足アルトキハ其不足額ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フモノトセリ(第八四二條此ノ如キ規定ハ外國ノ立法例ニモ存スレトモ學者ノ一般ニ非難スル所ナリ蓋シ船長カ同時ニ船舶所有者ナル場合ニ全財産ヲ以テ責任ヲ負フ可キモノトスルトキハ船長ハ安心シテ航海ニ關スル處置ヲ行フコトヲ得スシテ或ハ弊害ヲ生スルコトナキヲ保シ難ク從テ航海業ノ發達ヲ害スルニ至ルモ知ル可カラス故ニ佛國ノ如キモ千八百五十五年ノ法律ヲ以テ此區別ヲ廢シタルヲ以テ新法ハ此點ニ付テハ舊法ニ存セシ區別ヲ採用セザリシナリ

委任權ノ消滅(第五四五條)

船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲シシメタルトキハ前條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

船舶所有者ハ船舶及ヒ運送貨等ヲ委任シテ其責任ヲ免ル、コトノ權利ヲ付與セラレテ保護ヲ受クル以上ハ自己モ亦債權者ノ利益ヲ害セザル様努メザル可

カラス故ニ船舶所有者カ船舶及ヒ運送貨等ヲ委付シテ船長其他ノ船員ノ爲シタル行爲ニ付キ其責任ヲ免レント欲セハ委付ヲ爲シテ責任ヲ免ルコトヲ得ル債務カ生シタルトキハ直チニ其航海ヲ限リ船舶ノ航海ヲ休メ委付ヲ爲サ、ル可カラス然ルニ船舶所有者カ債權者ノ同意ナキニ新ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ船舶ハ益々毀損朽敗シ甚シキニ至リテ沈没スルコトアラハ債權者ハ之カ爲メニ其債權ノ辨濟ヲ受クルニ付テノ擔保ヲ減シ又ハ失フニ至リ所謂海産ノ範圍ハ減少シテ委付ヲ許シタル主意ニ背戻ス可キヲ以テ此場合ニ於テハ船舶所有者ヨリ委付權ヲ審ヒ普通ノ原則ニ從ヒ全財産ヲ以テ責任ヲ負ハシムルコトト爲シタリ

船舶ノ共有ニ關スルハ、民法第二四九條以下ト全ク其性質ヲ同クスルヤ船舶ヲ二人以上ニテ共同シテ所有スルトキ或ハ之ヲ船舶ノ股分所有舊商法第八四一條以下ト云ヒ或ハ之ヲ船舶ノ共有ト云ヒ各共同所有者ノ有スル部分ヲ一方ニ於テハ股分ト稱シ他ノ一方ニ於テハ共有ノ持分ト稱スレトモ是レ孰レモ民法ニ規定スル共有(民法第二四九條以下)ト全ク其性質ヲ同クスルヤ

將タ異ナルヤニ付テハ舊商法ハ毫モ之ヲ説明セザリシナリ或論者ハ曰フ船舶カ自然人ニ屬スル場合凡ソ三アリ一人專有數人共有及ヒ數人股分所有是レナリ其數人共有トハ民法ニ規定スル共有ノ場合ナリ其數人股分所有トハ一船舶ヲ法律上獨立セル數多ノ部分ヨリ成立スルモノト看做シ其一部若クハ數部ヲ所有スルヲ云フ而シテ股分所有者ハ此ノ獨立セル一部ノ所有權ヲ有スル者ナリト雖モ是レ唯タ法律上ノ觀念ニ止マリ船舶ヲ有形的ニ分割シ其一部ヲ所有スルニ非サルヲ以テ船舶全部ニ對シ不分ノ利害關係ヲ有スルナリ故ニ人或ハ股分所有者ハ全員ニテ一ノ組合ヲ爲スモノナリヤト疑フ者アラン然レトモ各國ノ法律ニ於テ此股分所有者ト組合トハ全ク之ヲ區別シ船舶ノ全部ヲ數人ニテ共有スルトキハ之ヲ船舶ニ關スル組合ト爲シ其數人ノ所有者カ船舶ノ一部ツ、ヲ分有スル場合ニハ之ヲ股分所有者ト稱セリ而シテ外國ニ於テハ船舶共有ノ持分股分ヲ法律ヲ以テ定ムルモノアリ例之ハ英國ニ於テハ六十四ノ如キ是レナリ或ハ慣習ニ從ハシムルモノアリ例之ハ佛國ニ於テハ法律ヲ以テ其數ヲ定ムス慣習ニ依リテ二十四ト定ムルカ如キ是レナリ今ヤ吾舊

商法ニ於テ船舶ノ股分ト云ヒ新商法ニ於テ船舶ノ共有ト云フモ唯タ其名稱ノ異ナルノミニシテ其實ハ同一ナリ而シテ吾舊商法ニ於テハ船舶ノ共有船舶ノ股分ト組合ト會社トノ關係ヲ明示セザレトモ船舶ノ共有ハ組合ニ非ス亦會社ニモ非スシテ一種ノ共有ト云ハサル可カラザレトモ法律カ其性質ヲ明示セザルヲ以テ疑義ノ生スル虞レアリ故ニ新商法ハ股分ナル語辭ヲ用ヒス之ニ代フルニ共有ナル語辭ヲ以テシタレハ其性質ハ民法ニ規定スル共有ニ關スル規定ニ例外ヲ爲セルモノナルコトヲ明カニセリ而シテ船舶ノ共有者間ニハ唯タ共有ノ關係アルニ過キスシテ組合又ハ會社契約ノ存スルヲ必要トセス孰レノ共有者モ他ノ共有者ニ代リ若クハ船舶全部ヲ處分スルノ權ヲ有セス亦孰レノ共有者モ他ノ共有者ト一致不分ノ義務ヲ有セス隨意ニ共有ヨリ股退シ自己ノ持分股分ヲ賣却シテ之カ繼承者ヲ以テ代フルコトヲ得可シ又他ノ一方ニ於テハ羅馬法ニ於ケルカ如ク共有ヲ廢スルコト(共有物ノ分割民法第二五六條第二五八條)請求シ船舶全部ヲ賣却ヲ以テ自己ノ持分ノ價額ヲ拂受クルコトヲ得可キ共有者ノ權利ヲ有セザルナリ而シテ共有者間ニ於ケル權利上ノ關係ハ其締

結セル契約ニ依テ之ヲ定メ此點ニ付テハモ法律上ノ牽制ヲ受タルコトナリ普通ノ原則トスルモノニシテ此契約ハ特殊ナル性質ヲ有ス即唯タ之ヲ締結シタル當初ノ當事者間ニ於テ之ヲ遵守スルニ止マラス併セテ後日ノ繼續人モ之ヲ遵守ス可キ義務アリ故ニ多少株式會社ノ定款ニ類シ船舶管理人ハ其取締役ニ似タリ但後日此契約ヲ共有者ニ於テ廢止シ又ハ變更スルコトハ妨ケナキナリ然レトモ其共有者ノ間ニ別段契約ヲ結ハスシテ其權利上ノ關係ヲ全ク法律ト慣習トニ放任スルコト尠シトセス殊ニ互ニ相識ラス遠隔ノ地ニ居住スル數多ノ共有者間ニ在テハ契約ヲ取結フコト甚タ困難ナルノミナラス或ハ出來得可カラサルコトアリ故ニ法律ニ於テ數多ノ共有者間ノ關係ヲ定ム可キ概要ノ原則ヲ設クルハ必要ナリ

吾新商法ハ舊商法ト同シク船舶共有ノ持分數ヲ法律上定ムルコトナク之ヲ後來生ス可キ慣習及ヒ國民ノ思想ニ放任セリ而シテ佛國ニ於ケル二十四ノ數ハ固ヨリ少キニ過ク何ントナレハ巨大ナル船舶ニ在リテハ其一持分ノ價額甚タ大ニシテ少クトモ數万圓ニ上リ船舶ノ所有權ヲ得ルハ獨リ富有ナル資產家ニ止

ルニ至レハナリ英國ニ於ケル六十四ノ數ハ稍適當ナルカ如シト雖モ是レ尙尠  
少キヲ免レシ外國ニ於テハ船舶共有ノ持分ハ船舶ヲ製造セシメント欲スル者  
概テ自カラ其船長ト爲ルノ企望ヲ以テ之ヲ知已其他ノ者ニ謀リ其實ヲ融集ス  
ルヲ以テ生スルコト多シトス而シテ其募ニ應スル者ハ造船及ヒ航装ニ關スル  
工事若クハ其材料ヲ以テスルコト少カラス故ニ獨逸ニ於テハ船舶共有ノ持分  
ノ數ヲ定ムルコトナク船ニ依リテ其數ハ各異ナルコトヲ得ルヲ以テ其數ハ千  
乃至數千ニ達スルコトナシトモ一人ニシテ數多ノ持分ヲ有セ又ハ  
數人ニシテ一ケノ持分ヲ共有スルモ妨ケナシ但此共有ノ場合ニ於テハ一人ノ  
總代ヲ置キ代人ヲラシムルナリ  
船舶ノ利用ニ關スル規定第五四六條  
船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格  
ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス舊商法第八四五條佛商法第二二〇條獨商法第  
四五八條  
船舶カ二人以上ノ共有ナルト其總ヘテ船舶ニ關スル事項ハ共有者總員ノ同意

危險發生シテ保險者カ填補ヲ行ヒタルトキ契約ノ消滅スルハ保險者カ保險金  
ノ全部ヲ支拂ヒタル場合ニ限ルモノニシテ一部ヲ支拂ヒタル場合ニハ其殘額  
ニ付テハ保險期間ノ殘餘ニ對シテ填補ノ責ニ任スルモノトス  
以上八節ヲ以テ保險契約法ノ一斑ヲ說明セリ而シテ保險ノ種類ヲ異ニスル  
ニ從テ尙ホ多クノ特別ナル技術的的法律的解明ヲ要スル諸點アリト雖モ講義  
進行ノ便宜上之ヲ省ケリ請フ之ヲ諒セヨ

### 第四章 保險會社法

#### 第一節 保險事業ノ性質及ヒ其國家ニ對スル關係

保險會社法ハ國家カ保險事業ヲ經營スル者即チ保險者ノ行爲ヲ檢制センカ爲  
メニ設クル所ノ行政法規ニシテ團體ヲ異ニセル多クノ國家カ保險事業ニ就テ  
凡ソ一定セル規定ヲ有スルコトハ全ク斯業ノ本質ニ起因スルモノニシテ猶ホ  
民情風俗ヲ異ニセル多クノ人種ノ間ニ於テモ凡ソ勸カスヘカラサル一定ノ福  
粹アルコト全ク人類ノ本質ニ基キテ然ルカ如シ  
凡ソ公法上ノ規定ハ之ヲ設定スル所ノ國家ノ國體政體等ニ由テ特殊ノ點アル

ト多キカ故ニ單ニ憲法ヲ理行政法々理等ト唱ヘテ萬國ニ通シタル憲法行政  
 法ノ法理ヲ説クコト能ハサレトモ保險會社法ノ規定ハ國體政體ノ影響ヲ被ラ  
 ス人類ト云ヘル世界ヲ通シテ存在スル動物カ其生存ノ必要ヨリシテ設定シタ  
 ル經濟的制度ニ關スルモノトシテ其本質ニ附着シタル正理ノ一貫シタルアリ  
 之ヲ保險會社法理ト稱シ國ノ何レヲ問ハスシテ之ニ適用シテ誤ラサルモノト  
 ス  
 而シテ此ノ如キ規定ノ存在ハ一ニ保險事業者ノ性質ニ繫カルモノナルカ故ニ  
 當然規定ヲ論スルニ先テテ保險事業ノ性質ト之カ國家ニ對スル關係ヲ述フル  
 ノ必要アリトス  
 國家ハ完全ナル能力ヲ有シ絶對ノ權力ヲ以テ其臣民ヲ支配スルカ故ニ臣民タ  
 ル者ハ一舉手一投足國家主權ノ干渉ヲ受ケサルナシ而シテ國家カ臣民ノ行爲  
 ノ上ニ行フ所ノ干渉ノ形式ハ之ヲ大別シテ認許禁止ノ二ト爲スコトヲ得而シ  
 テ此二者ノ孰レヲ行フヘキカノ標準ハ一ニ臣民ノ行爲カ國家ノ生存ニ無害ナ  
 ルヤ將タ有害ナルヤ之ヲ換言セハ該行爲カ公ケノ安寧秩序ヲ害セサルト否ト

ニ存在セリト思惟ス  
 保險事業ハ一種ノ國民經濟的活動ニシテ國家ハ之ニ對シテ如何ナル干渉ヲ行  
 フヘキヤ之ヲ認許スヘキヤ將タ禁止スヘキヤ認許スヘクシハ何等ノ條件ヲ以  
 テ之ヲ爲スヘキヤ是レ本節ニ於テ吾人ノ研究セサルヘカラサル問題ナリ  
 保險ノ根本的性質ハ委運ノ行爲ニシテ委運ノ行爲トハ運ニ任セテ利益ヲ得ン  
 トスルノ所業タルコトハ曩ニ之ヲ述ヘタリ然レトモ保險ノ目的タルヤ進ンテ  
 利益ヲ得ントスルニ非スシテ退テ利益ヲ保護セントスルニ在リ換言セハ損害  
 ノ免レントスルニ在ルカ故ニ彼ノ賭博博奕ノ如ク空利ヲ希圖シテ戰フノ類ニ  
 非ス隨テ博奕ノ如ク人類ノ職勉ヲ妨ケ德義ヲ壞リ經濟ヲ紊亂スルカ如キ惡結  
 果ヲ來スモノニ非サルハ固ヨリ財產ヲ保全シ零落ヲ防キ着實守成ノ氣風ヲ養  
 成スルノ大功アルヲ以テ如何ナル國家モ博奕ヲ禁セサル所無キカ如ク如何ナ  
 ル國家モ保險事業ヲ禁止セサルナリ(モナコ)ノ如キ賭博博奕ヲ公許シテ之ヨリ徵收  
 スル租稅ヲ以テ國家ノ財源ト爲ス國又ハ亞米利加ノオクラホム州ノ如キ保險  
 禁止法ヲ發布セルカ如キ所アレトモ是等ハ殆ト論外ト謂フ可ナリ)



保險事業ハ自己ノ所有セル利益ヲ保全セント欲スル思想ノ團結ニシテ其目的ト云ヒ其結果ト云ヒ國家ノ眼中ヨリ間然スル所無キカ故ニ全ク其經營ヲ人民ノ自由ニ放任シテ可ナルカ如キト雖モ尙ホ沈思一番スルトキハ保險事業ニハ只利益ヲ保全セントスル思想ノミナラス利益ヲ獲取セントスルノ思想ヲモ歴然トシテ認メ得ラル、ヲ如何セン請フ次ニ少シク之ヲ説明セン

保險事業ヲ構成スル者ハ保險者ト被保險者ナリ而シテ被保險者ノ意思ハ總テ損害ヲ免レントスルモノニシテ所謂善温良ナル善意思ナリト雖モ保險者即チ保險業者ノ意思ハ如何或ハ單ニ被保險者双互間ノ意思ヲ媒介スルニ在リト曰ハシ果シテ然ラハ俗ニ所謂世話焼ノ意思ニシテ頗ル世道ニ益アリト謂フヘシ然レトモ是レ事實ニ違ヘルノ語ニシテ昔時ハ相互救済ノ媒介ナリシ保險業者モ今ハ一個ノ獨立シタル損害補償ノ責任ヲ帯ヒタル職業ト爲リ平然トシテ媒介ヲ爲スノ外ニ實際ノ利益ニ利害ノ關係ヲ有シ損害多クハ財產ヲ喪ヒ損害少クハ利得ヲ得故ニ生命保險業者ハ常ニ戦々兢兢トシテ死者ノ少カラシコトヲ希ヒ火災保險業者ハ火災ノ發生ヲ是レ恐レリ此ノ如キハ運命ヲ賭シテ

利益ヲ獲取セントスル所ノ賭事博奕ノ類ト擇フ所無クシテ危險ナル投機的事業ト謂フヲ得ヘシ若シ獨立シテ行ハル、モノトセハ國家ハ之ヲ認許スヘキニ非ス然レトモ保險者ナルモノハ被保險者アリテ始メテ存在スルモノニシテ被保險者ノ善良ナル行為カ保險者ノ射倖の行為ヲ正ニスルモノナリ

保險事業ノ性質夫レ此ノ如シ故ニ國家カ之ヲ認許スルニ方リテハ之カ被保險者ノ利益ニ反セサルコト、之ヲシテ投機的事業タルノ性質ヲ可成遠カラシムルコトノ二個ノ大原則ヲ條件トシテ其經營ヲ認許スルノ策ニ出テサルヘカラス保險會社法ハ畢竟此二大原則ヲ擴メタルモノニ外ナラサルナリ

第二節 保險會社法ノ意義

保險事業ハ往古ヨリ會社又ハ組合ノ如キ團體ニ依テ經營セラレタリ是レ其性質上廣キ關係ト大ナル責任ヲ有シ信用ト運命ニ基キタルモノナルカ故ニ一個人又ハ小資本ノ力ノ及フ所ニ非サレハナリ尤モ海上保險ハ中世一個富豪ノ營ミシコトアリト雖モ近代ニ至リテハ此ノ如キ實例ヲ見ス一個人ノ保險者ト雖モ皆組合ヲ組織シテ之ヲ行ヘリ特ニ世界各國近來立法ノ傾向ハ會社ニ非サレ

ハ保險事業ヲ行フコト能ハサルコト、爲スニ在ルカ故ニ予ハ保險事業ノ羈束ヲ規定スル法律ヲ指シテ保險會社法ト云フナリ

### 第三節 保險會社法ノ必要ナル理由

保險事業カ其性質上國家ノ安寧ヲ傷ケントスルノ傾向アルコトハ難ニ述ヘタルカ如シ而モ適當ナル方法ヲ以テ之ヲ實行スルトキハ社會ノ福利ヲ増進スルノ功能偉大ナルカ故ニ國家ハ之ヲ認許スト雖モ其危險ナル結果ヲ防遏センカ爲メニ條件ヲ附シテ之ヲ認許スルノ必要アリ保險會社法ハ即チ認許ノ條件ニシテ保險事業カ此ノ如キ羈束ヲ受ケサルヘカラサル理由ヲ尙ホ平易ニ説明セハ之カ委運行爲ノ集點ニシテ一種ノ投機的事業ナルカ故ニ一步ヲ誤レハ社會善良ノ風ヲ壞リ其經濟ヲ紊亂スルノ恐アルコト之カ深遠ナル諸般ノ學理ニ據リテ組織運轉セラル、コト之カ一般社會ニ對シテ多クノ關係ト長キ責任ヲ有スル等ノ事情ニ歸セサルヘカラス保險事業カ全ク人民ノ自由ニ放任セラルヘキモノニ非ナルコトハ彼ノ英國スラ之ヲ確認セリ米、俄、獨、奧、白、西、瑞、典、那、威、ヲ始メトシ開明ノ邦國ハ皆嚴肅ナル保險會社法ヲ有セリ本邦ニ在ラハ未タ其制定ヲ見ル

ヲ得スト雖モ違カラスシテ吾人カ之ニ接スルノ日アルヘシ

保險會社法ニ就テハ今日殆ト普通ノ法理トモ稱スヘキモノ存在スルニ至レリト雖モ元來公法ノ規定ニシテ彼ノ保險契約法ノ規定ノ如ク各國同一ニ出ツルノ點多カラサルハ勿論ナルカ故ニ自ラ比較研究ノ法ニ出サルヘカラス稍、煩雜ノ嫌ナキニ非スト雖モ幸ニ之ヲ諒セラレンコトヲ乞フ

保險會社法ノ規定ハ之ヲ左ノ三段ニ分チテ講究スルヲ便利ナリトス

- 第一 保險會社設立ニ關スル規定
- 第二 保險業務執行ニ關スル規定
- 第三 保險會社解散ニ關スル規定
- 第四節 保險會社設立ニ關スル規定
- 第一 官許ヲ要スルコト

ナルカ故ニ之カ設立ヲ官許ニ依ラシメサルヘカラス獨乙埃太利北米合衆國  
 ヲ始メトシ最近ノ立法タル加奈太那威等ノ保險會社法ニ於テ皆然リ此主  
 義ハ現今殆ト異論無キモノニシテ英國ノ如キ放任主義ト雖モ設立ニ付テ  
 別ニ條件ヲ要求セサルモ一定額ノ保證金ヲ裁判所ニ供託セサレハ業務ヲ  
 行フコト能ハストセリ我邦亦此主義ヲ採用シ商法施行法中ニ之ヲ現ハセ  
 リ

第二 株式會社及ヒ共濟保險會社ニ限ルコト

保險業者ハ概シテ永久ノ責任ヲ有シ之カ盡クル所ノ時期ニ限度ヲ畫シ難シ  
 故ニ確定ニシテ永久ナル財産ノミ獨リ其責任ヲ盡シ其信用ヲ充タシ得ルモ  
 ノニシテ人ニ依テ信用ヲ繋キ人ニ由テ盛衰ヲ異ニスヘキ性質ヲ有セル合名、  
 合資ノ如キ會社ヲシテ經營セムヘカラス財産ヲ本位トセル株式會社ニ限  
 リテ之ヲ營ムコトヲ得セシムヘシ但共濟保險ハ別ニ株式會社ノ組織ニ依ラ  
 スシテ會社ノ利益ノ爲メニ存立シ得ヘキモノナルカ故ニ共濟保險會社又ハ相  
 互保險會社ト云ヘル一ヲ名稱ノ下ニ之ヲ認許シテ可ナルモノナリ埃太利向

第二 國債償還ノ時期ハ次ノ二者ヲ消極的限界ト爲ス可シ

第一 甲 償還セラル可キ國債ヨリ不利ナル國債ノ募集

國債ヲ新ニ募集スル所以ハ稀ニ資金ノ需要時期ノ切迫ニ基スルコトアルモ常  
 ニ巨額ノ經費ヲ要スルニ當リ一時非常ノ重稅ヲ課スルノ必要ヲ避クルニ在ル  
 ハ本論ノ劈頭ニ於テ詳述セル所ナリ隨テ上述ノ原則ニ對シテハ又之カ非難ヲ  
 加フ可キ餘地ヲ見出スコトナシ唯此二次原則ニ伴フ困難ハ次ノ實際問題ニ存  
 セリ

第一 國債ノ償還ニ由リテ生スル利益ト國債ノ償還ニ必要ナル増稅ニ因  
 ンテ生スル損害トノ程度ノ比較

第二 如何ナルモノヲ以テ有害ノ重稅ト視ル可キカ

第三 如何ナルモノヲ以テ非常ニ重キ重稅ノ新設又ハ増率ト視ル可キカ  
 第一ノ問題ハ要スルニ各個ノ事實問題ニ於テ政府財政ノ經過上國民經濟ノ狀  
 況ニ照應シテ之ヲ決定スルノ外ナシ第二ノ問題ニ於テ有害ナル重稅トハ要ス



ルニ爲メニ資本利用ノ動念ヲ減却セシムルヤ否ヤヲ標準トナサシムルハ非ス蓋  
 シ資本ハ死物ナリ一國生産ノ消長與ニ資本ノ大小ニ加アルニ之ヲ利用スル  
 ノ動念ノ存在ヲ俟タスシム非ス若シ租稅ノ賦課苛歛ニ失シ人民爲メニ其實本  
 ヲ利用シテ生産ヲ爲スノ動念ヲ減殺スルニ至ラハ以テ有害ナル租稅ト云フヲ  
 妨ケナルナリ第三ノ問題ニ於テ非常ニ重キ租稅ノ新設又ハ増率トハ要スルニ  
 爲メニ産業上普通一定ノ利潤ヲ侵蝕スルヤ否ヤ標準ト爲サスハ非ス蓋シ文  
 化ノ進歩ハ次第ニ資本ノ増殖ヲ來タシ金利ノ歩合ヲ減少シ利潤ノ率ヲ下落ス  
 ルノ趨勢ヲ見ルニ至リ後世ノ人民ハ前世ノ人民ヨリ低キ利潤ニ満足シテ資本  
 ヲ貯蓄シ又之ヲ活用スルハ爭フ可カラサル事實ナリ然レトモ何レノ時ト處ヲ  
 問ハス必ス或時代ニ在リテハ需要供給ノ原則ニ從ヒ之カ利潤ニ自ラ一定ノ歩  
 合ヲ生シ其歩合ヲ下リテ之カ利潤ヲ侵蝕スレハ必ズ之カ産業ノ衰退ヲ來シ  
 延テ政府カ自ラ財源ヲ枯渴スルニ至ルモノナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ之  
 ヲ重稅ト稱スルヲ妨ケサルモノナリ

第四節 國債償還ノ方法

國債ノ償還ニ於テ債權者ニ合意ヲ俟タズ強制シテ所定ノ期限外ニ償還ヲ行ヒ  
 時ニハ一部ノ辨濟ヲ以テ債務ノ消滅ヲ強制スルコトアルハ既ニ前章ニ於テ一  
 言セシ所ニシテ固ヨリ非理違法ノ職ヲ免ル能ハサルモノナリ殊ニ彼ノ千八  
 百四十年頃北米合衆國ニ於テ行ハレタル國債ノ取消ニ至リテハ全然國債ノ償  
 還ト視ル可カラザルコト固ヨリ論オキナリ

國家カ合法ノ償還ヲ爲スニハ拂戻ヲ爲スト買入ヲ爲スト二様ノ方法アリ固ヨ  
 リ市場ノ買入ハ拂戻ヲ爲スヨリ利益アリト思惟セラル、場合ニ限ラル、ノミ  
 ナラス政府カ償還ノ爲メ買入ヲ爲スニ際シテ其額固ヨリ大ナル可キヲ以テ秘  
 密ニ低下セル市價ヲ以テ巨額ノ買收ヲ爲スハ到底不能ニ屬ス可キノミナラス  
 忽チ市場ヲ動かシテ市價ノ暴騰ヲ來シ所定ノ目的ヲ達スルニ難キヲ例トス蓋  
 シ國債市價ノ高低ハ一ニ財政ノ信用如何ニ隨伴ス可キモノナルヲ以テ市價暴  
 落ノ際ニ於ケル買入ノ利益ハ拂戻ニ比シテ非常ニ大ナル可キコト固ヨリ言フ  
 俟タスト雖モ事實買入ヲ爲シ得可キ政府財政ノ狀況ノ下ニ在リテハ國債市價  
 ノ暴落ハ之ヲ期スルニ難ク市價ノ暴落ハ常ニ政府カ買入ヲ爲スカ如キ餘裕ノ

存在セザルニ結合タル可キヲ以テ買入ニ由ル償還ニ因リテ巨利ヲ得ルコトヲ專  
 實ニ於テ之ヲ見ルコト能ハサルヲ例ト爲シテモトシテ、  
 國債償還ノ資金ハ或ハ新國債ノ募集ニ依ルアリ或ハ租稅ノ新設又ハ増率ニ依  
 ルアリ或ハ剩餘金ニ依ルアリ或ハ官有財産ヲ拂下其他臨時ノ收入ヲ以テ之ヲ  
 フリ固ヨリ其規ヲ一ニモスト雖モ最モ國債償還ノ歴史ニ於テ有名ナルハ減債  
 基金法ナリ減債基金法トハ政府ヨリ年々若干額ヲ基金トシテ支出シ之ヲ以テ  
 國債ノ時價ニテ買上ケ其買上ケタル國債ノ利息ハ又基金ニ編入シテ買上ケ  
 充ツル法ナリ此法ノ主論者ハ「ブラオス氏」ニシテ氏ハ復利ノ結果ノ大ナルコト  
 ニ留意シ利子ノ上ニ利子ヲ加フルトキハ些少ノ元金ト雖モ著シク増額スルカ  
 故ニ當初一志ノ金額ヲ元金トシテ投下スレハ此元金ハ年々之ニ利子ヲ放下ス  
 ルニ因リテ自ラ増加ヲ來シ終ニハ國債總額ト同額ニ達スルニ至ル可ク且又新  
 國債ニモ一々之ニ相當ノ基金ヲ備フレハ該基金ハ利子ノ上ニ利子ヲ生シ次第  
 ニ増加ヲ來ス可キカ故ニ容易ニ之ヲ償還スルコトヲ得可シト説ケリ此方法ハ  
 第十八世紀ニ「ワルボ」氏之ヲ創設シ同世紀ノ終リマテハ此法ヲ以テ國債償

還ノ法ト爲セリ然ルニ爾後國債ノ種類著シク遞増シ某國債ノ資金ニ充ラタル  
 某稅ノ收入豫定額ニ超テテ多キモ某國債ノ資金ニ充ラタル某稅ノ收入豫定額  
 ヲ下リテ不足ヲ生シ而モ此等各國債ノ資金間ノ流用ヲ許サハルヲ以テ基金  
 總額ニ於テ餘裕アルモ某國債ノ元利支拂ニ故障ヲ生スルノ奇觀ヲ呈スルノ  
 ミナラス爲メニ之ヲ管理上非常ノ煩雜ト經費ヲ要スルニ依リ「ウイリヤム」  
 「ト」氏ハ此等各國債ノ資金ヲ合シテ一大基金ヲ設ケテ以テ便宜各種國債ノ支拂ニ  
 充ツルニ至リタリ然レトモ此方法ハ「ハミルトン」「リカルド」等ニ由リテ根柢ヨリ  
 其弊害多キコトヲ論難セラレ剩餘金ヲ以テ償還基金ト爲ス可キ原則ハ一千八  
 百十九年ニ於テ始メテ事實トシテ認めラル、所ト爲リ一千八百二十九年ニ至  
 リテ償還基金獨立ノ制度全廢セラレテ從來其保有セル國債證券ハ總テ之ヲ棄  
 却セラル、コト、爲レリ「佛蘭西」尙ホ政府國債證券ヲ買戻スコトアレハ直  
 チニ之ヲ消却セス其利子ヲ積ミ之ヲ以テ國債償還ノ資ニ充ツルヲ法ヲ執レ  
 減債基金法ノ根本ノ誤見ハ基金ヲ以テ國債ヲ買上タルハ政府カ生産的ニ財產

ヲ購入スルモノナリト爲スニ在リ蓋シ國債ノ償還ハ如何ナル方法ヲ執ルモ到底國庫ノ支出ヲ免レザルモノニシテ此方法ハ單ニ人民ニ支拂フ可キ利息ヲ政府カ領收シテ之ヲ消却スルコトナク流用スルニ止マリ國庫ノ支出ニハ二者増減ナク之カ爲メニ歳出ヲ節約シ人民ノ負擔ヲ輕減スルモノニ非サル爲リ故ニ此方法ハ徒ニ巨額ノ資金ヲ不生産ニ積立テ、之カ取扱ノ爲メ特別ノ官署ヲ設ケ財政機關ノ一部タルノ地位ヲ去リテ純然タル一個獨立ノモノト爲リ此方法ヲ維持ノ爲メニ之カ擔保トシテ更ニ新國債ヲ起スカ如キ兒戲ヲ馴致シ右手ヲ以テ借り左手ヲ以テ償却スルカ如キ奇觀ヲ演スルノミナラス巨額ノ資金ヲ不生産的ニ蓄積スルハ斯法本來ノ目的ヨリ不得止ノ弊害ト視ル可キモ多クハ他ニ濫用セラル、爲メ雷ニ減債基金ノ本旨ニ背反スルノミナラス其害毒却テ大ナルコトアルハ英國財政史ニ於テ屢見タル所ナリトス

「ワルポール」氏減債基金法開始ノ當初十一年間、規則ヲ嚴重ニ恪守セルトモ其共ニ國債買上ケテ爲メニ高利國債ヲ募集スルノ兒戲ヲ演シ徒ニ利子歩合差額ト無用ノ手数料經費ヲ損スルノ愚ヲ學ヒタリ一千七百二十七年後

ニ至リテハ漸ク濫用ノ端緒ヲ開キ新ニ起ス國債ノ利子ハ基金ヨリ支出スルコト爲シ一千七百三十三年ニハ基金ヨリ五十萬磅ヲ割キテ通常經費ニ流用シ翌年又二十萬磅ヲ割キ爾後戰時事變ノ爲メ濫用スルコト多カリシヲ以テ「ブライズ」氏ノ計算ニ依レハ一千七百七十二年マテニハ二千萬磅ノ償還ヲ完ウス可キ豫定ナルニ拘ハラズ實際償還ヲ了セシモノハ僅々五分ノ一ニ過キササルノミナラス一方ニハ殆ト之ニ四倍セル國債ヲ起シタリ一千七百八十六年ウヰリヤム、ピット氏再ヒ斯法ヲ起シ嚴重ニ之カ濫用ノ弊害ヲ抑制セシモ猶ホ一方ニハ一億三千八百萬磅ヲ償還シテ一方ニハ五億七千四百萬磅ノ新債ヲ起シタリ

之ヲ要スルニ國債ノ償還ハ收入ノ剩餘金ヲ以テスルノ外途ナキハ明カニシテ年々財政ノ緩急ニ應シ剩餘金ヲ以テ國債償却ノ使途ニ供セスハ非ス所謂「ミルトン」氏ノ歲入ノ剩餘ハ獨リ國債ノ償還ニ充ツ可キ真正ノ償却基金ナリト云ヘルニ國債償還ノ一大原則ト謂ハスニハ非サルナリ

終リニ臨ミ國債ノ償還ニ關シ前各節ニ於テ述ヘタル意見ノ梗概ヲ一言シ以テ

國債論ノ結論ト爲ス可シ  
 國債ハ國家ノ債務ナリ尙且其償還カ惡税ノ廢止ニ先テ又ハ爲メニ惡税ヲ生スルカ如キ結果ニ陥ラサル以上ハ財政ノ緩急ニ應シテ常ニ之カ償還ヲ怠ル可カラズ國家ハ永久ノ法人ナリ信用ハ之ヲ破ルニ易ク之ヲ得ルニ難シ國家ハ不法不理ノ手段ニ訴ヘテ一時ノ儉安ヲ計ル可カラス  
 國家ハ合法ニシテ且比較的利益アル範圍ニ於テ國際ノ償還ヲ爲ス可ク借換ニ由ルモ買上ニ由ルモ拂戻ニ由ルモ其手段ノ是非ハ一時ト處ニ依リテ之ヲ決セシムルハ非ス  
 國家ハ國債償還ノ資金ヲ減債基金法ニ依リテ求ム可カラス之カ一種ノ變態ト視ル可キ有期年金又ハ終身年金ニ借換ヘテ國債ヲ償還スル方法モ又等シク之ヲ排斥セシムルハ非ス國家ハ財政ノ緩急ニ應シテ便宜剩餘金ヲ以テ國債ノ償還ニ充ツルニトテ意ル可カラス故ニ臨時ノ收入ヲ俟ツハ國債償還ノ常道ニ非ス財政ノ緩急ニ應シ國債費トシテ年々一定ノ繼續費ヲ支出スルヲ便トス是レ「ガ」ラチン氏ノ創造ニ係ルモノニシテ我邦國債償還ノ方法ハ大體ニ於テ相一致ス

ルモノタリ

財政學收支適合論終

和佛法律學校發行

法學士 下村 宏 講述

財政學講義

(三十二年度講義錄)

和佛法律學校發行

麻州志軒學效發行

根翅學編卷

第廿二章 財政學

(三十二) 財政學

財政學目次

第四編 收支適合論

第一章 總論 ..... 二

第二章 國債ノ發達 ..... 三七

第三章 國債ト私債 ..... 六一

第四章 國債ノ分類 ..... 六七

    第一節 非常國債ト平常國債 ..... 七〇

    第二節 內國債ト外國債 ..... 七四

        第一款 財政上外國債ノ利害ヲ論ス ..... 七六

        第二款 經濟上外國債ノ利害ヲ論ス ..... 七八

        第三款 政治上外國債ノ利害ヲ論ス ..... 八一

    第三節 強制國債ト任意國債 ..... 八三

        第一款 強制國債 ..... 八四

財政學目次



第二章 任意國債……………一〇二

第四節 流動國債ト確定國債……………一一〇

第一款 流動國債……………一一二

第一項 行政上ノ流動國債……………一一二

第二項 財政上ノ流動國債……………一二二

第二款 確定國債……………一三五

第一項 總論……………一三五

第二項 有期確定國債……………一三九

第三項 無期確定國債……………一五八

第五章 國債ノ募集……………一六一

緒論……………一六一

第一節 直接發行法及ヒ間接發行法……………一六四

第二節 國債ノ條件ヲ標準ト爲ス國債募集方法ノ分類……………一七二

第一款 割増平價及ヒ割引發行法……………一七二

第二款 鐵札附發行法……………一七八

第三款 限地發行法及ヒ限人發行法……………一七九

第四款 償還基金又ハ抵當物附發行法……………一八〇

第五款 記名發行法及ヒ無記名發行法……………一八三

第六款 募集ノ回數及ヒ拂込ノ多少ヲ標準ト爲ス法……………一八四

第六章 國債ノ管理……………一八六

緒論……………一八六

第一節 國債ノ借換……………一八九

第二節 國債利子ノ引下……………一九五

第一款 合意ニ出ツル利子引下……………一九六

第二款 強制ニ出ツル利子引下……………一九九

第三節 國債ヲ課稅物件ト爲スノ可否……………二〇一

第七章 國債ノ償還……………二〇六

第一節 緒論……………二〇六

財政學目次

終

第一章 國債償還ノ可否

第二章 國債償還ノ時期 ..... 一七〇

第三章 國債償還ノ方策 ..... 一七七

第四章 國債償還ノ方策 ..... 一八二

第五章 國債償還ノ方策 ..... 一八六

第六章 國債償還ノ方策 ..... 一八八

第七章 國債償還ノ方策 ..... 一九〇

第八章 國債償還ノ方策 ..... 一九三

第九章 國債償還ノ方策 ..... 一九六

第十章 國債償還ノ方策 ..... 一九八

第十一章 國債償還ノ方策 ..... 二〇〇

第十二章 國債償還ノ方策 ..... 二〇三

第十三章 國債償還ノ方策 ..... 二〇六

第十四章 國債償還ノ方策 ..... 二〇九

第十五章 國債償還ノ方策 ..... 二一二

第十六章 國債償還ノ方策 ..... 二一五

第十七章 國債償還ノ方策 ..... 二一八

第十八章 國債償還ノ方策 ..... 二二一

第十九章 國債償還ノ方策 ..... 二二四

第二十章 國債償還ノ方策 ..... 二二七

借以上ニ於テ一般ニ船舶所有者カ船員ノ行為ニ對スル責任ヲ研究シタル後編  
 ヲ我新商法ノ規定如何ヲ顧ンニ新商第五百四十四條第一項ニ曰ク  
 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲マタル行為又ハ船長其他ノ船  
 員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船  
 舶運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權  
 ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ル、コトヲ得云々  
 ト、以テ我新商法ノ規定モ亦前述シタル責任財産ヲ定ムル主義ヲ採リ其中ニテ  
 佛法ニ倣ヒ委付主義ヲ採リタルコトヲ知ルヘシテ本條ニ依リテ尙ホ詳細  
 ニ説明セシム  
 船舶所有者カ制限債務ヲ負フハ船員ノ行為ヨリ生スル總テノ債務ニ對スルモ  
 ノニアラスシテ第一ニ船長カ其法定權限内ニ於テ爲シタル行為ヨリ生スル債  
 務第二ニ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタルヨリ  
 生スル債務ニ限ルナリ即チ第一ハ法律行為ヨリ生スル債務ニシテ第二ハ不法  
 行為ヨリ生スル債務ナリ船長ノ法定權限トハ新商第五百六十六條以下三個條



ノ規定スル所ノモト是ナリ船長其他ノ船員トハ船長運轉士機師士ヨリ水火夫ニ至ルマテ總テ皆包含スルナリ又其職務トハ單ニ文字ノミヨリ解スレハ其範圍極メテ廣シト雖モ吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ船員等カ船船所有者ノ使用人トシテ負擔スル所ノ職務ノ範圍ナリト解セサルヘカラス何トナレハ固ト船船所有者ヲシテ船員等ノ不法行為ニ對シテ責任ヲ負ハシムル所以ノモノハ船員等ハ船船所有者自身ノ職務ヲ行フハナリ焉ソ他人ノ職務ヲ行フ他人ノ爲メニ賠償ヲ爲ス責任アラザヤ故ニ例ヘハ船長カ官又ハ法律ノ命ニヨリ特ニ行政權又ハ司法權ノ執行ヲ委任サルルコトアルモ是レ船船所有者ノ使用人トシテ當然行フヘキ職務ニアラス官ヨリ命セラレタル船長彼レ自身ノ職務ナリ故ニ船長カ行政權若クハ司法權ヲ執行スルニ當リ他人ニ損害ヲ加フルコトアルモ船船所有者ハ敢テ與リ知ルヘキ限リニアラス其損害ハ寧コ船長ニ行政權若クハ司法權ヲ委ネタル政府ニ於テ賠償スヘキ必要アルモノナレハ之ヲ賠償スヘキナリ故ニ予ハ法文ニ所謂其職務ト云フ文字ヲ論理的ニ解釋シテ船員等カ船船所有者ノ使用人トシテ行フ所ノ職務ノ範圍ナリト解スルナリ

次キニ新商法カ責任財產トシテ定メタル海產ノ範圍ヲ説明セシニ新商法ニ所謂海產ノ範圍ハ舊商法ニ謂フ所ヨリモ廣シ即チ舊商法ハ船船及ヒ運送貨ノミヲ以テ責任財產タル海產トナセリ(舊商第八四二條)雖モ新商法ニテハ船船及ヒ運送貨ノ外ニ船船ト同視スヘキ船船ニ付キ有スル損害賠償請求權及ヒ運送貨ノ比散スヘキ船船ニ付キ有スル報酬ノ請求權ヲ包含セシメタリ船船ニ付キ有スル損害賠償請求權トハ例ヘハ共同海損ニ於ケル船船所有者ノ請求權ノ如キ其他各種ノ不法行為ニ因リテ船船ノ被ムリタル損害賠償請求權ノ如キ是ナリ但シ保險契約ニ基キ損害ヲ填補セシムル請求權ハ此中ニ包含セス何トナレハ保險ハ船船所有者ト保險者トノ間ニ成ル別派ノ契約關係ニシテ該契約ヲ締結シテ以テ一身ノ損害ヲ填補セシムルト否トハ全ク船船所有者ノ自由ニ屬ス船船自體并ニ之カ利用ニ依リ當然之ニ附着スヘキ運送貨ハ初メヨリ債務者ノ視テ以テ擔保ノ目的トスル所ナリト雖モ保險契約ニ因ル填補請求權ハ決シテ債權者ノ看テ以テ擔保ノ目的ト爲ス所ノモノニアラス殊ニ船船所有者ハ陸產中ヨリ常ニ保險料ヲ支出セサルヘカラス彼ノ船船ニ付キ一旦損害アリタル

合ニ保險金額ノ支拂アルハ寧ロ陸産ヨリ支出シタル保險料ニ對スル應酬ト云フヘキナリ然ラハ則チ保險契約ニ因ル填補請求權ハ法文ニ所謂損害賠償ノ請求權ノ中ニ包含セシメサルヲ以テ當然ト云フヘキナリ殊ニ文字ノ意義ヨリ云フモ損害賠償ノ請求權トハ不法行為者ニ對スル請求權ヲ云フモノニシテ特殊ノ應報ヲ支出シテ損害アリタル場合ニ填補セシムル保險金トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナルコト最モ明白ナリ又船舶ニ付キ有スル報酬ノ請求權トハ例ヘハ船舶カ救授救助ヲナシテ受クル所ノ報酬ノ如キ其他法律上運送貨ト稱スヘキモノニアラサルモ船舶所有者カ船舶ヲ利用シテ受クル所ノ各種ノ報酬ノ請求權ヲ總稱スルモノナリ

又法文ニ航海ノ終ニ於テトアルカ故ニ運送貨ニマレ損害賠償請求權ニマレ報酬ノ請求權ニマレ總テ皆當該債權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨損害賠償請求權報酬ノ請求權ノミヲ指稱スルモノナルコト知ルヘキナリ故ニ船舶所有者ノ全財産ヲ二分シテ陸産海産トナス場合ニ於ケル海産ノ中ニハ多數ノ船舶多數ノ航海ニ於ケル運送貨損害賠償請求權及ヒ報酬請求權ヲ包含スヘシト雖モ

各債權ニ對シテ委付スヘキ運送貨損害賠償請求權及ヒ報酬請求權ハ多數ノ航海ニ於テ生シタルモノヲ包括的ニ指稱スルモノニアラス即チ各債權ニ對シテ委任スヘキ運送貨并ニ請求權ハ獨リ該債權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨并ニ請求權ニ限ルナリ故ニ各債權ニ對シテ責任アル海産ノ部分定マレリ換言スレハ船舶所有者ノ全海産ハ每航海ニ於ケル債權ノ爲メニ部分的ニ包括的ト相對シテ云フ委付ノ目的トナルモノナリ

法文ニ所謂債權者トハ船舶及ヒ運送貨ニ付キ優先權ヲ有スル所謂船舶債權者ハ勿論其他一般債權者ヲモ總テ皆包含ス但シ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行為又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタルニ因リテ生シタル債權者ニ限ルコト勿論ナリトス

委付ハ單獨行為ニシテ契約ニアラス故ニ相手方ノ承諾ヲ待タズシテ其効力ヲ生ス而シテ之ヲ爲スハ書面ニテモ口頭ニテモ可ナリ又其効力ヲ生スル時期ハ民法ニ於ケル意思表示ノ一般通則ニ依ルモノニシテ即チ受信ノ時ニ在リ又海産ヲ委付スルト云フモ之カ爲メニ海産ニ對シテ既ニ有スル優先權ヲ害スヘキ

ニアラス故ニ海産ニ對スル優先權者ハ船舶所有者カ委付ヲ爲スト否トニ係ハ  
 ラス其權利ヲ行フコトヲ得  
 吾人ハ以上ニ於テ船舶所有者カ委付シテ責任ヲ免ルルコトヲ得ル債權ノ範圍  
 并ニ委付ノ目的タル海産ノ範圍ヲ説明シタリ然ルニ船舶所有者ノ此有限責任  
 債務ノ通則ニ對シテ制限ヲ設ケ再タヒ無限責任ノ原則ニ復歸スル場合アリ而  
 シテ其場合ニ三ツアリ即チ左ノ如シ  
 一 船舶所有者ニ過失アリタル場合第五四條第一項但書 廣ク船舶所有者ニ  
 過失アリタル場合ト云フカ故ニ船舶所有者カ船長其他ノ船員ノ選任ヲ誤リ又  
 ハ監督ヲ怠リ又ハ船舶所有者カ船員ニ特別ノ指圖ヲ與ヘ船員ハ之ニ從テ其職  
 務ヲ行ハ爲メニ損害ヲ生シタル場合ノ如キ總テ皆包含ス蓋シ船舶所有者自身  
 ニスル過失アル場合ニ於テハ前キニ述ヘタル其責任ヲ制限スル理由ニ考フル  
 モ毫モ其責任ヲ輕ムルノ必要ナシ故ニ此場合ニ於テハ無限責任ヲ負ハシム  
 二 雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利第五四條第二項 運送貨ハ給料ノ  
 母ナリトノ原則ハ船員自身カ航海事業ノ共同企業者タル場合ニ於テコソ認ム

ヘケレ今日ノ如ク船舶所有者ニ航海事業ノ企業者ニシテ船員ハ全ク雇傭契  
 約ニ因リテ使用サルモ、モノニ過キサルコト最モ明白ナル時代ニ於テハ斯ル原  
 則ハ決シテ之ヲ認ムヘカラス殊ニ况ンヤ今日ニ於テ給料ノ額ハ契約上一定  
 船舶所有者カ過分ノ運送貨ヲ取得シタル場合ニ於テ其利益ヲ船員ニ屬タス  
 テ獨リ損失アリタル場合ニ於テノミ之ヲ船員ニ負擔セシムル理由毫モ之無キ  
 ニ於テヲヤ故ニ給料ハ運送貨ト終始セシムヘキモノニアラス殊ニ船員ノ如キ  
 ハ多クハ貧者ナルカ故ニ契約上ノ給料サヘモ完全ニ之ヲ取得スルコト能ハサ  
 ルトキハ船員ハ固トヨリ妻子マテモ路頭ニ迷ハサルヘカラスルニ至ル故ニ雇  
 傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利主トシテ給料ニ付テハ船舶所有者ヲシテ  
 常ニ無限責任ヲ負擔セシムヘキナリ仍テ一般ニハ船員ノ權利ニ對シテ船舶所  
 有者無限責任ヲ負擔スルコト新商法ニ於テ固ヨリ明文ヲ待タサルナリ唯第五  
 百四十四條第一項ノ規定ノミニ止ムルトキハ船長カ其法定權限内ニ於テ雇傭  
 契約ニ因リテ船員ヲ雇入レタル場合新商第五六六條ニ依リ船員ノ雇入及ヒ雇  
 止ハ船長ノ法定權限ニ屬スニ於ケル船員ノ權利ニ對シテモ亦船舶所有者ハ海

産ヲ委付シテ責任ヲ免レ得ル様アリ仍テ同條第二項ヲ設ケテ雇傭契約ニ因ル船員ノ權利ニ付テハ第一項ヨリ之ヲ除外シ船舶所有者ヲシテ無限責任ヲ負擔セシムルコトヲシタルナリ

又右ノ場合ニ懸聯シテ起ル所ノ問題ハ法文ニ船員トアルカ故ニ船長カ法定權限内ニ於テ他ノ船長ヲ雇入ル、場合アリヤノ點是ナリ蓋シ新商第五百六十條ニ依リ船長カ己ムコトヲ得サル事由アルニ因リテ他人ヲ選任スル場合ハ此一例ナルヘシ又法文ニ雇傭契約ニ因リテ云々トアルカ故ニ船員ト船舶所有者トノ關係ハ常ニ雇傭契約關係ナリヤノ問題ヲ生ス蓋シ海商全篇ヲ通シテ稽フルニ新商法ニ於テハ船員ト船舶所有者トノ關係ハ常ニ雇傭契約關係ト看做セルモノ、如シ何トナレハ前項第五百四十四條第二項ノ外ニ第五百八十四條及ヒ第六百八十條第七號等ニ於テ常ニ雇傭契約云々ト明言スレハナリ然レトモ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ海員ニ付テハ兎モ角船長ニ付テハ雇傭契約ノ外ニ委任契約常ニ隨伴スルモノタルコトヲ信スルナリ何トナレハ若シ船長ニシテ勞務ヲ目的トスル雇傭契約關係ノミニ立ツモノトスレハ何故ニ彼レノ爲メニ法定權限

二 第二百二十條及第二百二十二條ニ掲ケタル事項

三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數

四 第一回拂込ノ金額

申込證ヲ作ルコト及ヒ申込證ニハ必ス前記ノ事項ヲ記載スルコトハ其ニ發起人ノ義務ニシテ若シ此規定ニ違反シテ申込證ヲ作ラサルカ又ハ記載事項ヲ缺キタルカ又ハ不正ニ記載セタルトキハ第二百六十一條ノ規定ニ依リ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル蓋シ新商法ノ申込證ハ會社設立ニ關スル要件ヲ豫メ株式申込人ニ告知セシムルモノニシテ舊商法ニ於ケル目論見書公告ト同主義ニ基キタルモノナリ故ニ之ニ關スル發起人ノ義務ヲ嚴ニセルナリ

申込人ハ以上ノ事項ヲ記載セタル申込證二通ニ其引受ケタル株式ノ數ヲ記入シ之ニ署名スルコトヲ要ス尙又株式ヲ額面以上ノ價格ニテ例ヘハ百圓株ヲ百何圓ニテ發行シタル場合ニハ其引受價格百何圓ヲ記載セサルヘカラス  
株式ノ金額ハ一定スト雖モ其賣買價格ハ必スモ額面金額ト一致セサルナリ株式會社ノ事業ノ收益多キ場合ニハ其市價ハ額面或ハ拂込高以上ニ上ル

コトアルト同シク將ニ設立セントスル會社ノ事業ノ前途將タ多量ナルカ又ハ利益多キ會社カ新株ヲ發行スル場合ニハ好シテ額面以上ニテ引受クル者アルナリ而シテ額面以上ニテ株式ヲ發行スルコト妨ケナレト雖モ額面以下ニテ株式ヲ發行スルコトヲ許サス蓋シ株式ハ會社ノ資本ナリ會社ノ資本ハ會社信用ノ基礎ナリ故ニ若シ額面以下ニテ株式ヲ發行スルトキハ會社ノ資本ハ名實相適ハス世人ニ信用ヲ誤ラシムル恐アルナリ(第百二十八條第一項)株式申込人カ以上ノ手續ヲ爲シタルトキハ申込ハ成立シ之ニ因リテ申込人ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フナリ

株式ノ申込ハ契約ノ申込ナルヤ將タ承諾ナルヤハ學者ノ往々論争スル所ナリ株式ノ申込ヲ以テ承諾ナリトスル者ハ株式申込證ノ交付ヲ以テ契約ノ申込ト見做シ之ニ反シテ株式申込ヲ契約ノ申込ナリトスル者ハ申込證ノ交付ヲ以テ單ニ申込ヲ募集スルモノト爲スナリ此議論ヲ決スルニハ申込證ノ交付カ契約ノ申込ノ要件ヲ備ヘタルヤ否ヤヲ決セサル可カラス愚見ニ依レバ申込證交付ノ性質ハ各場合ニ於テ募集者ノ意思ニ因リテ定マルモノニシテ

一概ニ之ヲ論斷スルコト能ハス第百二十七條ニ於テ株式ノ申込ヲ爲シタルトキハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フト云ヘルハ株式ノ申込ヲ以テ契約ノ承諾ト見タルノ感アリト雖モ必スシモ文字ニ拘泥スルコトヲ要セザルヘシ

株式ノ申込カ株式ノ總數ニ滿タサルトキハ發起人ハ自ラ之ヲ引受クルカ又ハ會社ノ設立ヲ廢止スルカ(申込人ニ對シテ損害ヲ賠償スル責任アルヘシ)或ハ又創立總會ニ資本減少ノ決議ヲ求メサル可カラズ  
株式ノ總數ニ對スル申込アリテ株式ノ引受人確定セルトキハ發起人ハ直ニ各株式ニ付キ拂込ヲ爲サシメサルヘカラス株式ノ拂込ハ或ハ一次ニ全部ヲ拂込マシムルコトアリ或ハ數回ニ分割シテ拂込マシムルコトアリ數回ニ分割シテ拂込マシムル場合ニ於テハ第一回ノ拂込ハ少クモ株式金額四分ノ一以上ナラサルヘカラス額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ拂込マシムルナリ  
發起人カ第一回ノ拂込ヲ爲スヘキコトヲ通知シタルトキハ株式引受人ハ直ニ



之ヲ拂込マサルヘカラス若シ之カ拂込ヲ怠リタルトキハ發起人ハ二週間以上ノ期間ヲ定メテ此期間内ニ拂込ヲ爲スヘキコトヲ通知シ若シ此期間内ニ拂込ヲ爲サ、ルトキハ株式引受ノ權利ヲ失フヘキコトヲ豫告スルコトヲ得此豫告ヲ爲シタルニ拘ハラズ尙引受人カ拂込ヲ爲サ、ルトキハ引受人ハ株式引受ノ權利ヲ失フヘシ此場合ニ於テハ發起人ハ更ニ株主ヲ募集シ又引受人ノ拂込ノ滞納ニ因リテ損害ヲ生シタルトキハ引受人ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルナリ(第一三〇條)

舊商法ニ於テハ第一回ノ拂込ヲ怠リタル者ニ對シテ爲スヘキ處分方法ヲ規定セサリシヲ以テ或ハ定款ニ於テ新商法第三百十條ノ規定ノ如キ規定ヲ設ケタルモノアリキ然レトモ舊商法ノ規定ニ從ヘハ第一回ノ拂込ハ已ニ會社ノ成立シタル後ニ在ルヲ以テ會社成立後ニ既定ノ資本ニ對シテ株主ノ募集ヲ爲スト云フハ不法ノ嫌ナキ能ハス

株式總數ノ引受アリタル後一年内ニ第一回ノ拂込カ終ハラサルトキハ已ニ拂込ヲ爲シタル株式引受人ハ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコ

#### ト得第一四〇條

斯クテ第一回ノ拂込ヲ終リタルトキハ發起人ハ直ニ創立總會ヲ招集シテ會社ノ發起ニ關スル事項ヲ報告セサル可カラス若シ第一回ノ拂込ヲ終リタル後六ヶ月内ニ創立總會ヲ招集セサルトキハ株式引受人ハ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得凡ソ株式申込ノ取消サレタルトキハ發起人ハ更ニ株主ヲ募集スルカ或ハ自ラ之ヲ引受ケサル可カラズ  
創立總會ヲ招集スルニハ二週間前ニ株式引受人ニ目的及決議事項ヲ記載シタル通知ヲ發スヘシ創立總會ハ株式引受人ノ半數以上ニシテ其引受ケタル株式ノ總計カ資本ノ半額以上ニ該當スル者出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス而シテ決議ヲ爲スニハ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テス引受人ノ議決權ハ一株ニ付キ一個ヲ原則トスルモ定款ヲ以テ十一株以上ヲ引受ケタル者ノ議決權ノ數ヲ制限スルコトヲ妨ケス又株式引受人ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得ヘシ代理人ヲ以テ議決權ヲ行ハントスルトキハ豫メ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出スヘシ創立總會ノ議事ニ付キ利害關係ヲ有スル者ハ議決ニ



與カルコトヲ得(第一三一條)

創立總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法ニシテ法令又ハ定款ノ規定ニ背キタルトキハ引受人ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ創立總會ノ決議無効トスル宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(第一三一條)

創立總會ニ於テハ又取締役及ヒ監査役ヲ選舉セサルヘカラス選舉セラレタル取締役及ヒ監査役ハ株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ各株ニ付キ第一回ノ拂込(額面以上ニテ株式ヲ發行シタルトキハ同時ニ額面ヲ超エタル金額ノ拂込モヲ終リタルヤ否ヤ及ヒ發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名其財産ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額等ヲ調査シテ之ヲ創立總會ニ報告スヘシ若又取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ検査役ヲ選任シテ之ヲシテ其者ニ代リテ右ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ(第一三四條)是レ發起人カ株式全部ヲ引受ケタル場合ニ於テ検査役ノ選任ヲ要シタルカ如ク

發起人カ受クヘキ特別利益金錢以外ノ出資設立費用等總テ發起人ノ利害關係アル事項ヲ調査セシムル必要アルヲ以テナリ而シテ創立總會ハ此等ノ事項ノ調査報告ヲ得テ不當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得ルナリ若又引受ナキ株式申込ノ取消サレタル株式又ハ第一回拂込ノ未済ナル株式等アルトキハ發起人ハ連帶シテ其株式ヲ引受クルカ又ハ其者ニ代リテ拂込ヲ爲サ、ルヘカラス又之カ爲メ會社ニ損害アルトキハ賠償ノ責任アルナリ

創立總會ハ會社ノ成立ヲ確定スルモノナルヲ以テ定款ヲ變更スルコトヲ得ルハ勿論會社設立ノ廢止モ亦之ヲ議決スルコトヲ得ヘシ乃チ會社ノ創立手續ニ最後ヲ與フルモノニシテ若シ會社ノ設立ヲ廢止セサルニ於テハ會社ハ創立總會ノ終結ノ時ヲ以テ成立スルナリ故ニ發起人ノ事務ハ此ニ終了ス

會社カ成立シタルトキハ設立ノ登記ヲ爲サ、ルヘカラス設立ノ登記ハ取締役之ヲ爲スヘシ設立ノ登記ハ一定ノ期間内ニ之ヲ爲サ、ルヘカラス此期間ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第百二十四條ニ規定セル調査終了ノ日ヨリ起算シ又發起人カ株主ヲ募集シタル場合ニハ創立總會ノ終結ノ日ヨリ起

算シ二週間内ニ之ヲ爲サ、ルヘカラス

登記ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲サ、ルヘカラス登記スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 第二百十條第一號乃至第四號及第七號ニ掲ケタル事項
  - 二 本店及ヒ支店
  - 三 設立ノ年月日
  - 四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
  - 五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額
  - 六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率
  - 七 取締役及ヒ監査役ノ氏名住所
- 會社設立後支店ヲ設ケタル場合本店支店ヲ移轉シタル場合及ヒ登記事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於ケル登記ニ關シテハ合名會社ノ規定ノ準用アリ
- 會社ハ設立ノ登記ニ因リテ其成立ヲ公認セラレ、ナリ故ニ設立ノ登記アリタルトキハ

# 校外生規則ノ改正

本校々外生規則中昨年十二月改正シタル重ナ

ル點ハ左ノ如シ

第七條校外生ハ本人ノ望ニ因リ證狀ヲ付與ス

ヘシ但證狀ヲ望ム者ハ金貳拾錢ヲ納ムヘシ

第十條 校外生修業證書ヲ有スル者ハ其請求

ニ因リ校外生名簿ニ登錄ス但登錄ヲ請求ス

ル者ハ手数料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ校

外生名簿ニ登錄セラレタル者ハ終身第八條

ノ特權ヲ享有スルコトヲ得

第十一條 講義錄全部ノ校外生修業證書ヲ有

スル者ハ試験ノ上校内生三年級ニ編入スヘ

シ又校友會規則第五條ニ因リ校友ニ推選セ

ラルコトヲ得

明治三十三年一月九日印刷

明治三十三年一月十日發行

編輯者 小田 幹治郎

印刷者 金子 鐵五郎

印刷所 金子 活版所

發行所 司法部 **和佛法律學校**

所在 東京市麴町區富士見  
(町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可